上野原スマイルプラン
（男女共同参画計画）
策定に関するアンケート調査結果

上野原市

もくじ

１．　調査概要 1

① 調査の目的 1
② 調査時期 1
③ 調査対象 1
④ 調査方法 1
⑤ 回収結果 1
⑥ 本報告書中の記号、調査結果の数値について 1

２．　回答者の属性 2

Ｆ１：性別（SA） 2
Ｆ２：年齢（SA） 2
Ｆ３：居住地区（SA） 3
Ｆ４：ご結婚されていますか（SA） 3
Ｆ５：お子さんはいますか（SA） 4
Ｆ６：お子さんの人数（SA） 4
Ｆ７：同居している家族構成はどれですか（SA） 5
Ｆ８：職業（SA） 5
Ｆ９：配偶者の職業（SA） 6
F10：職場までのおおよその通勤時間（片道）（SA） 7

３．家庭生活について 8

問１：家事を正当な仕事だと思いますか（SA） 8
問２：配偶者から「思いやり」を感じていますか（SA） 9
問３：誰に介護してほしいと思いますか（SA） 10
問４：経済的な暮らし向き（SA） 10
問５：平均的な平日において、あなたが「学業・仕事」「家事・育児・介護」「睡眠」にかけている時間はおおよそどれくらいですか。 11
問６－１：世帯の合計年収のうち、男女それぞれが稼ぐ割合はおおむねどれくらいですか。（SA） 12
問６－２：家庭内で、家事・育児・介護などを分担する割合はおおむねどれくらいですか。（SA） 12
問６－３：配偶者・パートナーとの家事・育児・介護などの分担にどの程度満足していますか。（SA） 13
問６－４：あなたの家庭では、次のことは誰がしていますか（SA） 14

４．地域生活や地域参加について 15

問７：あなたは、地域での活動にはどのように関わっていますか（SA） 15

問8：今後、市の仕事の中で、女性がもっと活躍した方がよいと思う分野は次のどれですか。（MA）……16
問9：審議会等の公的役員や地区役員を受けますか（SA）……17
問9－1：受けない理由（MA）……18

5．仕事について……19

問10：一般的に女性が仕事をもつことについて、どれが望ましいと思いますか（SA）……19
問11：あなたは、どのような立場で仕事をするのが理想ですか。（SA）……20
問12：あなたの現在の仕事上の立場は、次のうちどれに近いですか。（SA）……20
問13：あなたの職場は次の休暇が取得しやすいですか（SA）……21
問14：職場や仕事上で次のことについて男女の不平等を感じていますか（感じていると思いますか）（SA）……22

6．仕事と家庭・地域社会のバランスについて……23

問15：あなたは「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）について、知っていましたか（SA）……23
問16：（1）仕事と、家庭生活との関わり方について、希望する関わり方は次のうちどれですか（SA）……24
問16：（2）現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか（SA）……25
問17：男女が共に、仕事と家庭生活を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか（MA）……26

7．性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）について……27

問18：あなたの身近なところ（職場、地域、学校）に性的嫌がらせがありますか（SA）……27
問18-1：その内容はどのようなものでしたか（MA）……28
問19：その性的嫌がらせはどこで行われましたか（MA）……29
問20：性的嫌がらせを防止するためには、どんなことが必要だと思いますか（MA）……30

8．家庭内・家族間で起こる暴力（ＤＶ：ドメスティックバイオレンス）について……31

問21：家庭内・家族間、特にパートナー（夫・妻・恋人）からの肉体的・精神的な暴力に対して、問題意識をもっていますか（MA）……31
問22：過去5年くらいの間において、次に挙げるような男女間（夫婦・恋人）での暴力についての経験がありますか（SA）……32
問23：そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか（MA）……33

9．男女共同参画社会の実現について……34

問24：あなたは「男女共同参画社会」をご存知ですか（SA）……34
問25：「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか。（SA）……34
問26：現在、県や上野原市などで実施している次の事業・施設・サービス・組織・団体についてご存知ですか（SA）……35
問27 男女共同参画社会の実現をしていくためには、今後、行政はどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか（MA）……36
問28　上野原市で男女共同参画社会を実現するのに必要と思われることを、次の欄に自由にお書きください。（自由記載）……37

１．調査概要

① 調査の目的

本市では、少子高齢化や晩婚化・晩産化の進行など社会や地域の動向は大きく変わってきているなか、男女共同参画計画「第 2 次上野原スマイルプラン」（平成 27 年 4 月策定）を見直すための現状と課題を把握するために、本市民を対象にアンケートを実施した。

② 調査時期

アンケート期間：令和6年7月29日（月）～8月23日（金）

③ 調査対象

上野原市在住の 18 歳以上の男女 1,000 人を対象とした。

標本抽出方法は、住民基本台帳をもとに、地区別・男女別に層化無作為抽出を行った。

④ 調査方法

調査票を郵送し、郵送もしくは WEB フォームにて回収を行った。

⑤ 回収結果

発送数	回収数			有効回収数	有効回収率
	郵送	WEB	計		
1,000	256	143	399	399	39.9%

回答者年代	全体	性別		
		男性	女性	その他
18～29 歳	72	23	48	1
30～39 歳	66	26	40	0
40～49 歳	66	25	41	0
50～59 歳	55	18	36	1
60～69 歳	62	37	25	0
70 歳以上	77	36	41	0
無回答	1	1	0	0
合計	399	166	231	2

⑥ 本報告書中の記号、調査結果の数値について

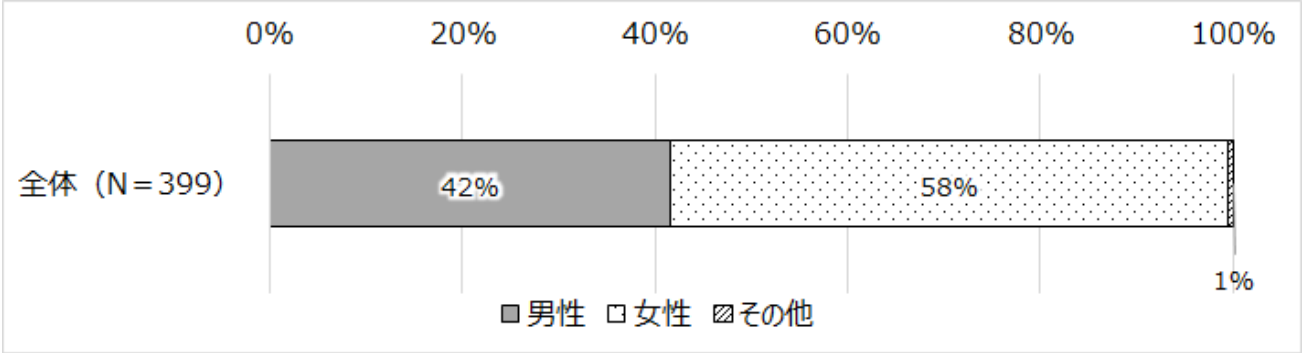
（SA）　単一回答（Single Answer）の略。選択回答は1項目のみ。
（MA）　複数回答（Multi Answer）の略。
（一部回答を限定しているものもある。）
ｎ　回答者数（number）をあらわす。「ｎ＝100」は、回答者数が 100 人ということ。

各回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が 100%にならない場合がある。

２．回答者の属性

Ｆ１：性別（ＳＡ）

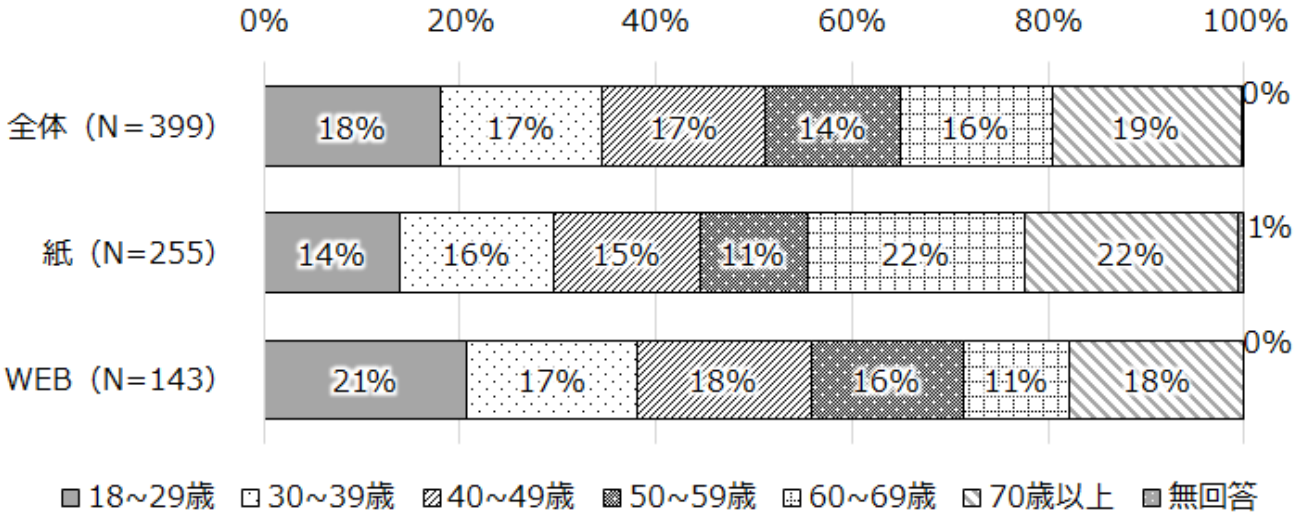
性別は、男性が 42%、女性が 58%、その他が 1%となっています。



【前回調査】 男性：48.2%、女性：51.1%、不明：0.8%

Ｆ２：年齢（ＳＡ）

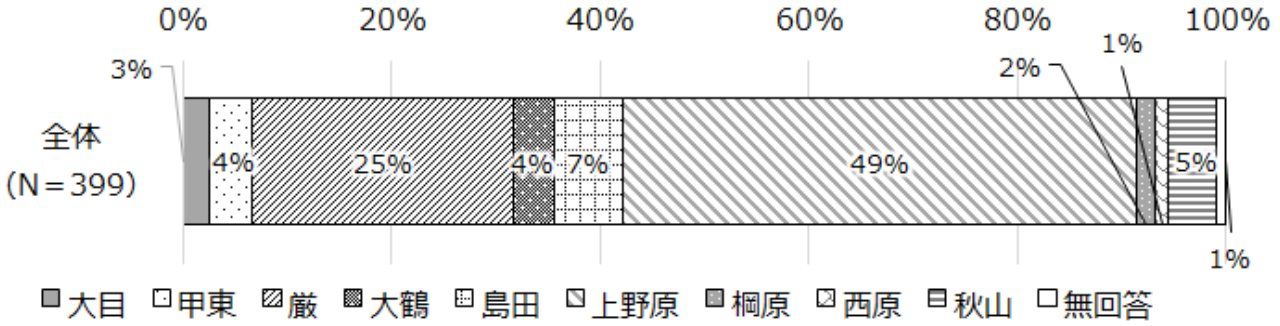
年齢構成は、各階層別に「18～29 歳」が 18%、「30～39 歳」が 17%、「40～49 歳」が 17%、「50～59 歳」が 14%、「60～69 歳」が 16%、「70 歳以上」が 19%となっています。



【前回調査】 20～29 歳：6.3%、30～39 歳：8.2%、40～49 歳：9.5%、
50～59 歳：19.5%、60～69 歳：28.7%、70 歳以上：27.9%

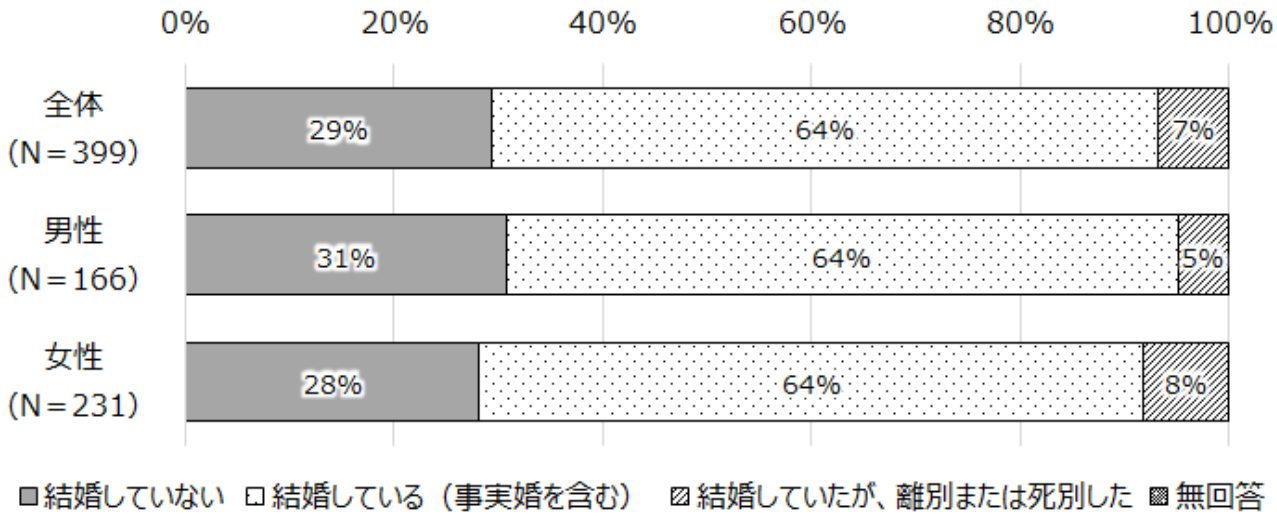
Ｆ３：居住地区（ＳＡ）

居住地区は、「上野原」が最も多く 49%、ついで「巌」の 25%、「島田」7%の順となっています。



Ｆ４：ご結婚されていますか（ＳＡ）

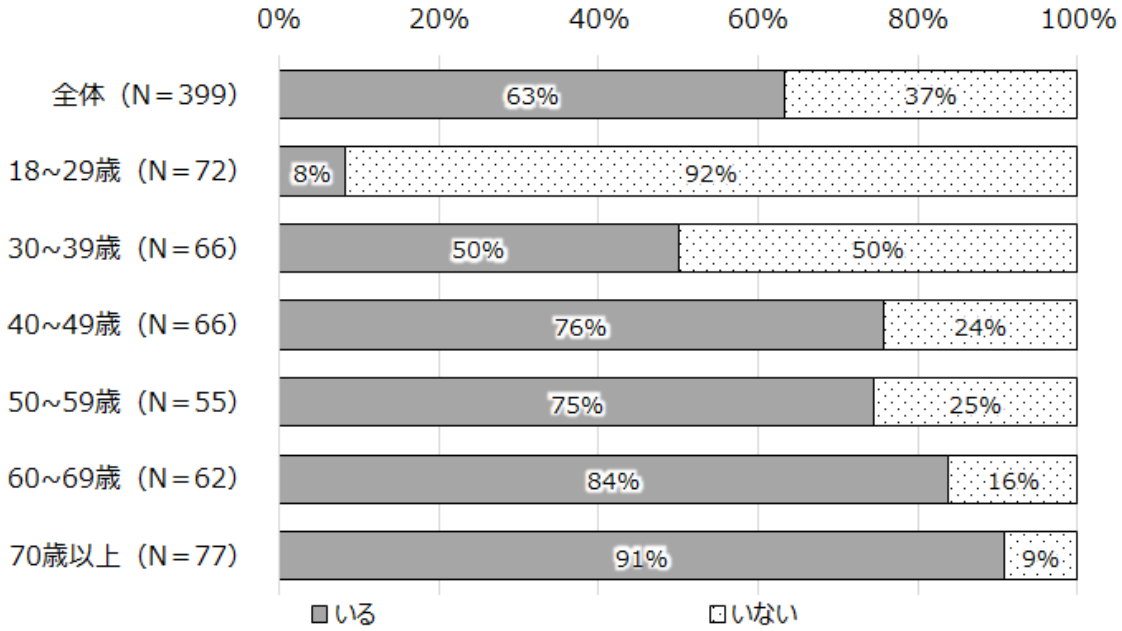
結婚については、「結婚していない」が 13.9%、「結婚している」は 76.6%、「結婚していたが、離別または死別した」は 9.5%となっています。



【前回調査】 結婚していない：13.9%、結婚している：76.6%、結婚していたが離別または死別した：9.5%

Ｆ５：お子さんはいますか（ＳＡ）

子どもについては、「いる」が 63%、「いない」は 37%となっています。ただし、年代によって回答状況は大きく異なり、「いる」と回答した人は 18～29 歳では 8%、30～39 歳では 50%、70 歳以上では 91%となっています。

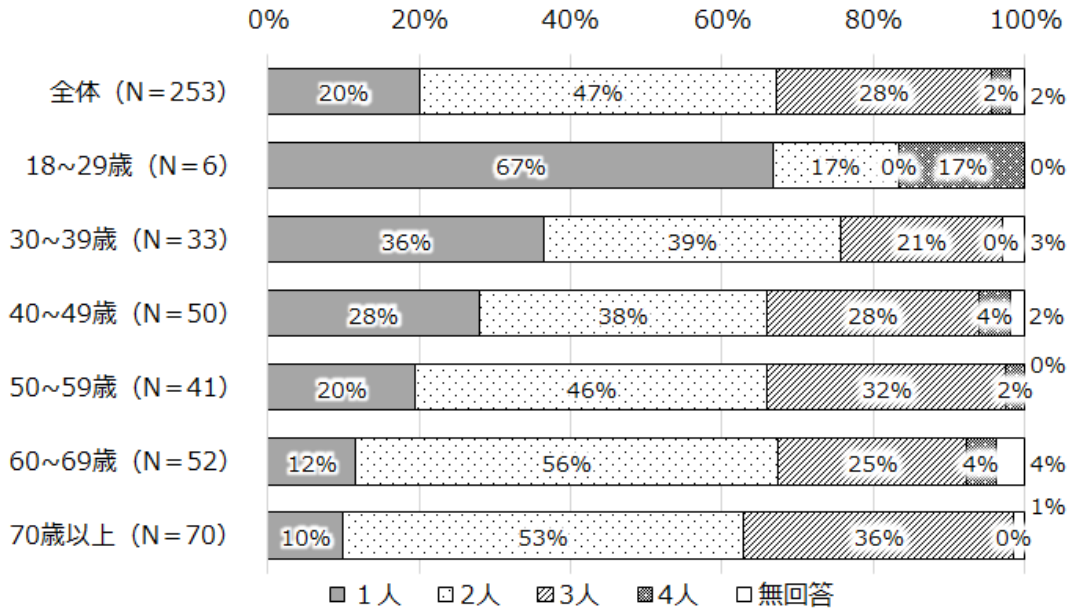


【前回調査】 いる：80.0%、いない：20.0%

Ｆ６：お子さんの人数（ＳＡ）

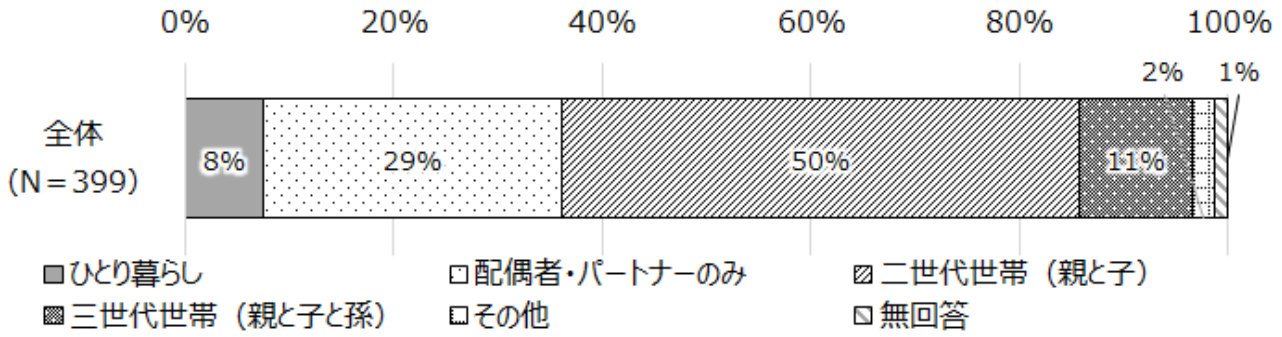
全体では、「2 人」が 47%と最も多く、次いで「3 人」が 28%、「1 人」が 20%となっています。年代別に見ると、若い世代では「1 人」が多くなっています。

※お子さんがいる方のみへの設問



Ｆ７：同居している家族構成はどれですか（ＳＡ）

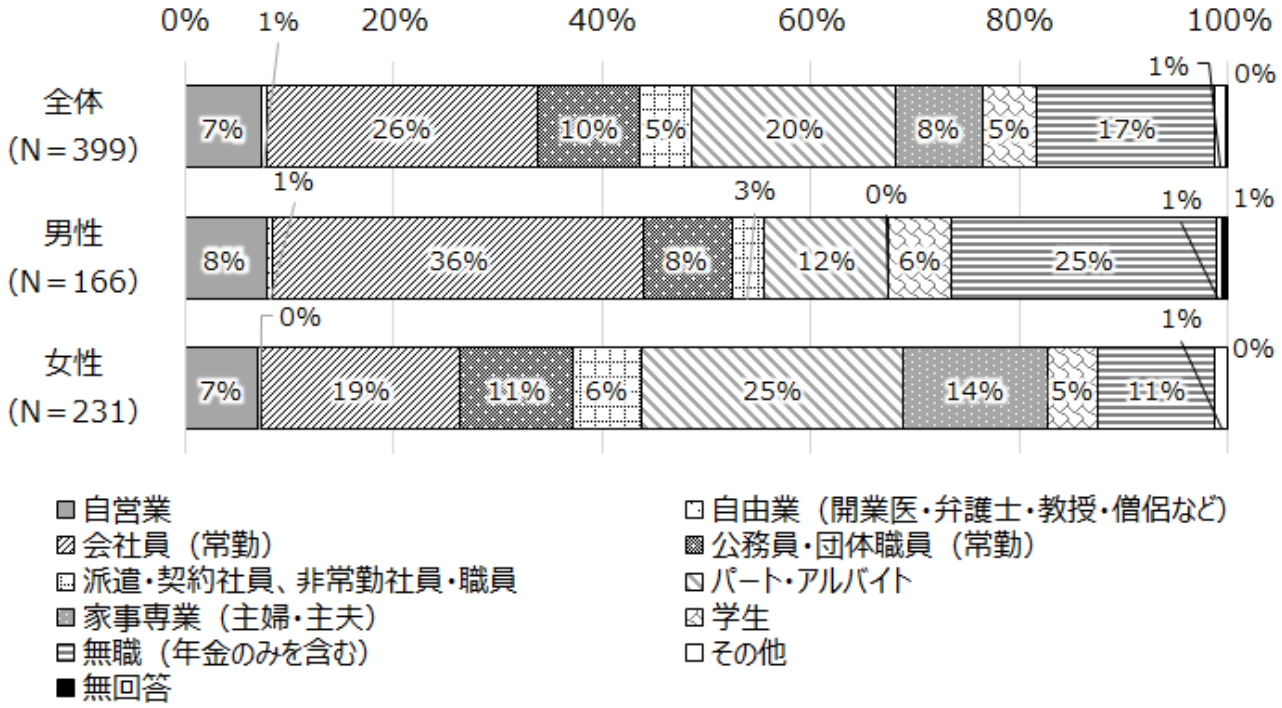
家族構成は、「二世代世帯（親と子）」が 50%と最も高く、次いで「配偶者・パートナーのみ」が 29%、「三世代世帯（親と子と孫）」が 11%となっています。



【前回調査】 ひとり暮らし：7.1%、夫婦のみ：30.8%、二世代世帯：44.7%、三世代世帯：14.2%、その他：3.2%

Ｆ８：職業（ＳＡ）

職業は、「会社員」が最も多く 26%、次いで「パート・アルバイト」が 20%となっています。男女別にみると、男性では「会社員」（36%）が最も多く、女性では「パート・アルバイト」（25%）が最も多くなっています。

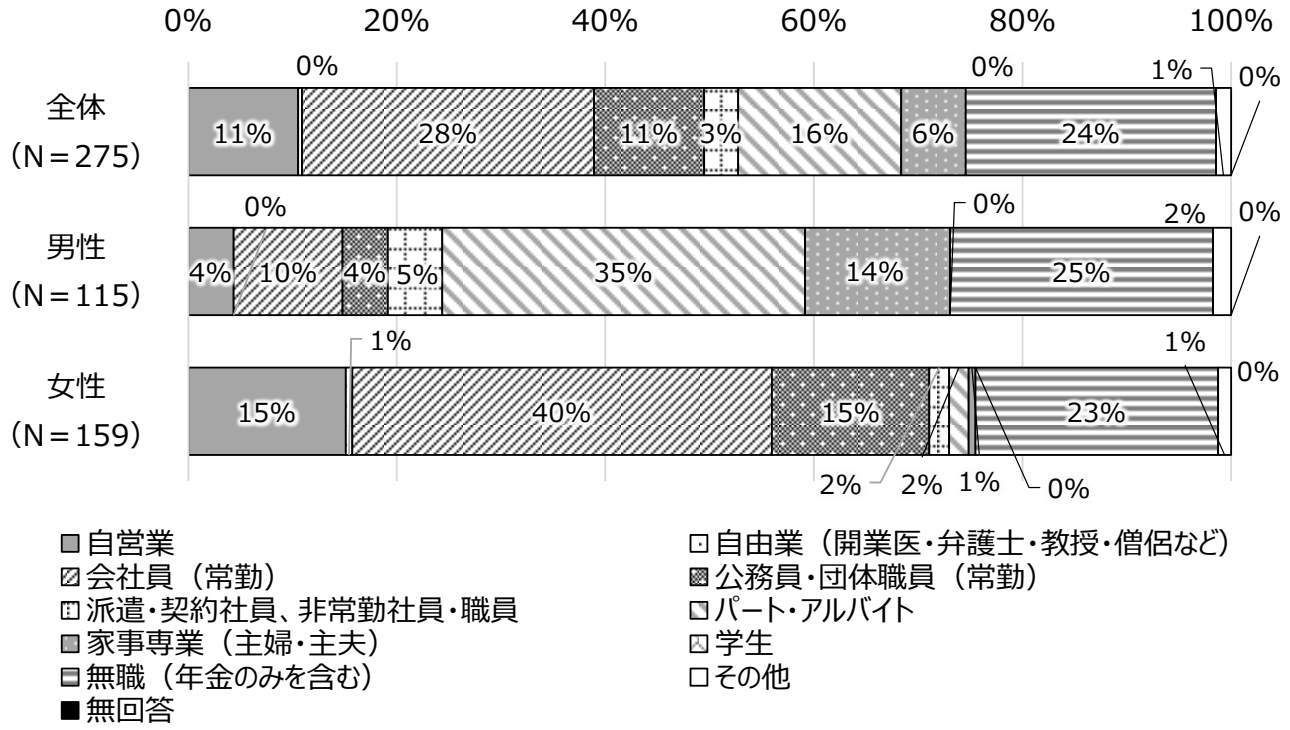


【前回調査】 自営業：10.5%、自由業：1.8%、会社員：16.3%、公務員：5.3%、派遣・契約社員：4.2%、パート・アルバイト：13.7%、家事専業：17.9%、学生：2.4%、無職：26.6%、その他：0.5%、不明：0.8%

Ｆ９：配偶者の職業（ＳＡ）

配偶者の職業は、「会社員」が最も多く 28%、次いで「無職」が 24%となっています。男女別にみると、男性では「パート・アルバイト」（35%）が最も多く、女性では「会社員」（40%）が最も多くなっています。

※配偶者がいる方のみへの設問



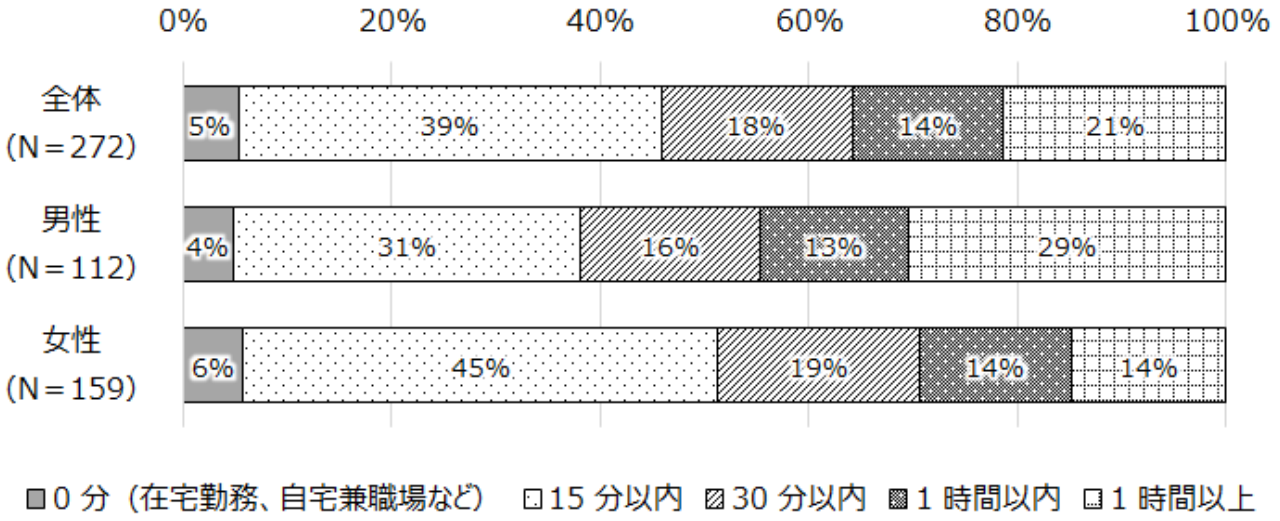
【前回調査】 自営業：14.1%、自由業：0.3%、会社員：13.5%、公務員：7.0%、派遣・契約社員：4.6%、パート・アルバイト：14.1%、家事専業：11.9%、学生：0.0%、無職：28.4%、その他：0.6%、不明：5..5%

Ｆ10：職場までのおおよその通勤時間（片道）（ＳＡ）

「15 分以内」が 39%と最も多く、次いで「1 時間以上」(21%)となっています。男女別にみると女性は「15 分以内」が 45%と最も多い一方で、男性は「1 時間以上」が 29%と多くなっています。

「0 分(在宅勤務、自宅兼職場)」は 5%となっています。

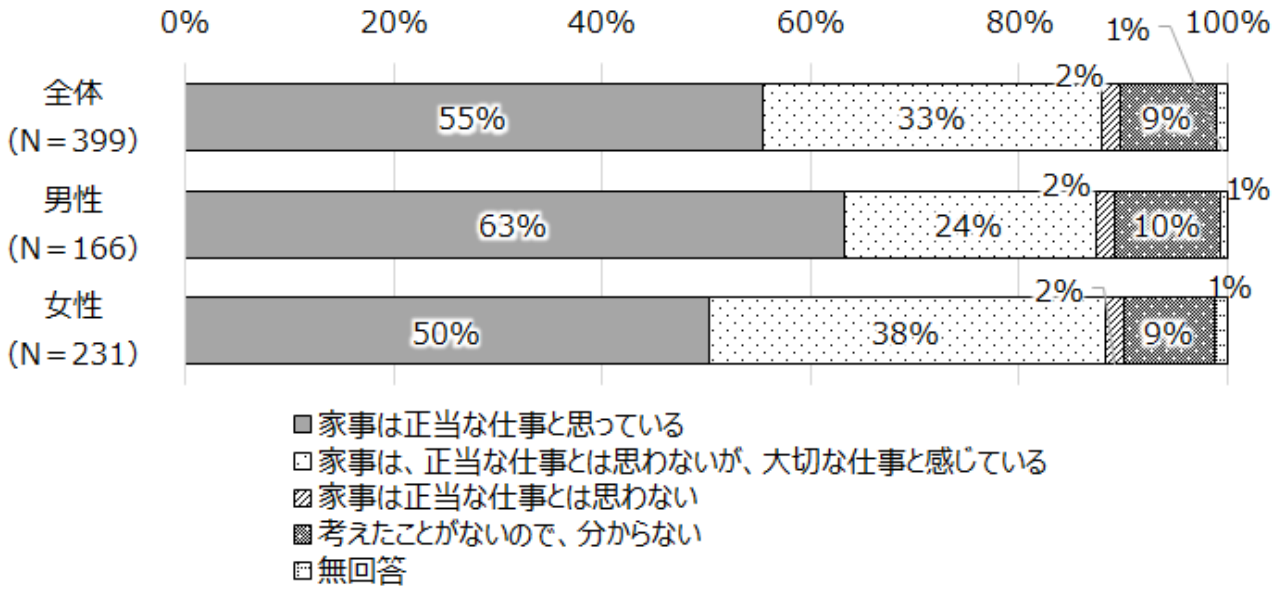
※仕事を持っている方のみへの設問

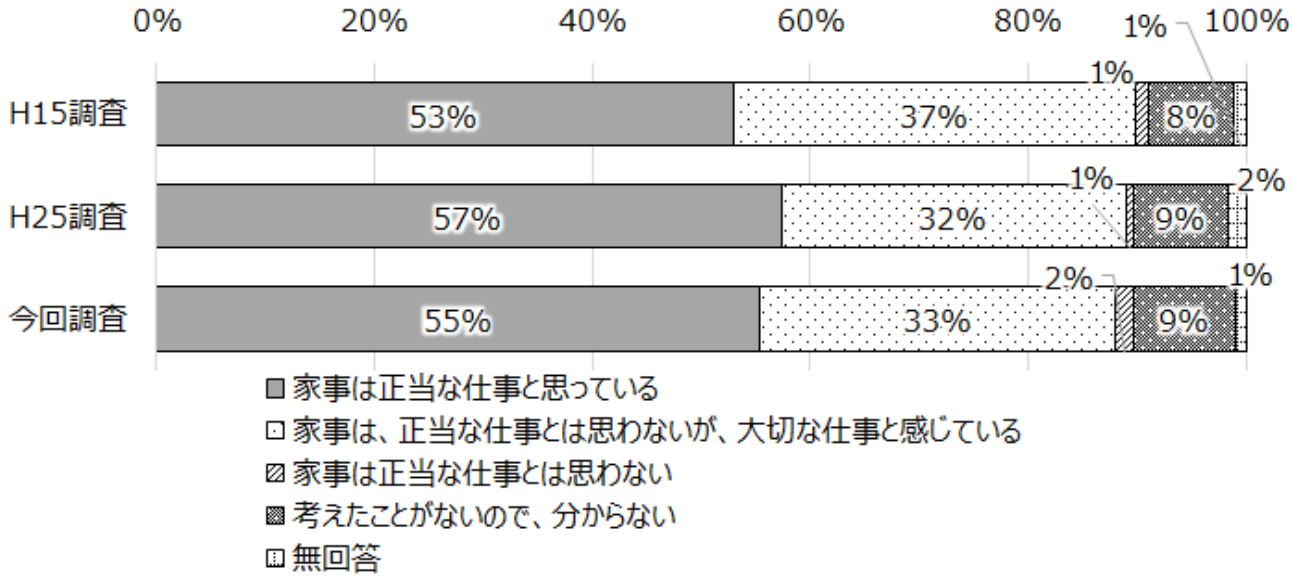


３．家庭生活について

問１：家事を正当な仕事だと思いますか（ＳＡ）

家事を正当な仕事だと思いますかの設問に対しては、「家事は正当な仕事だと思っている」が 55%、「正当な仕事とは思わないが、大切な仕事と感じている」が 33%、「考えたことがないので、分からない」が 9%、「正当な仕事とは思わない」が 2%となっています。



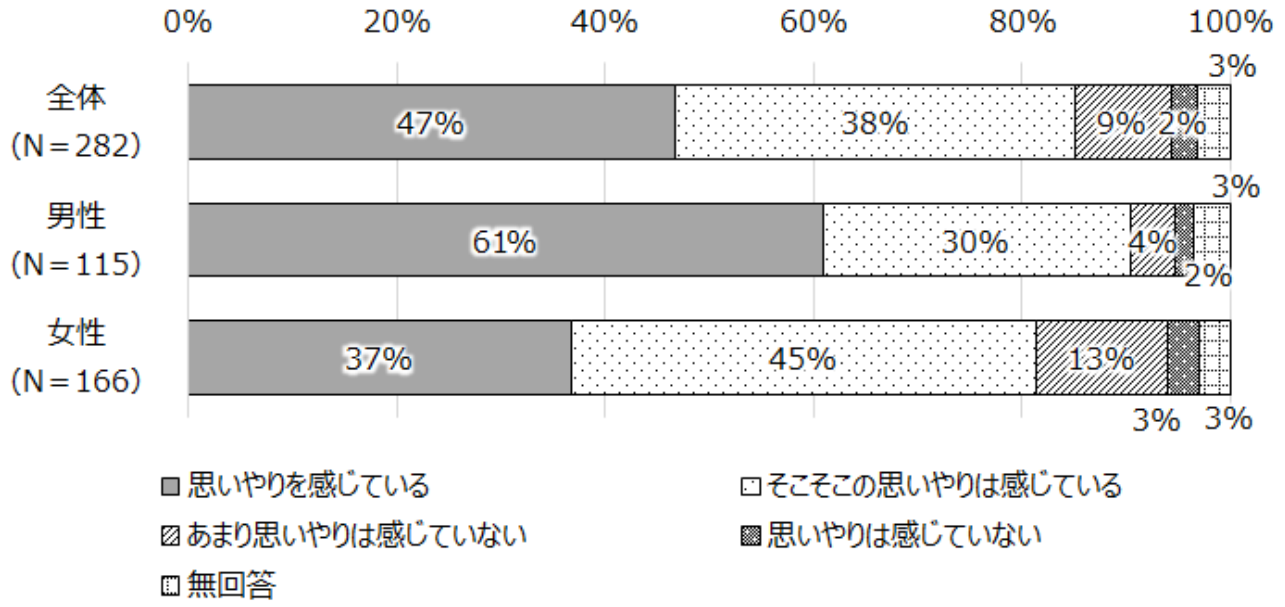


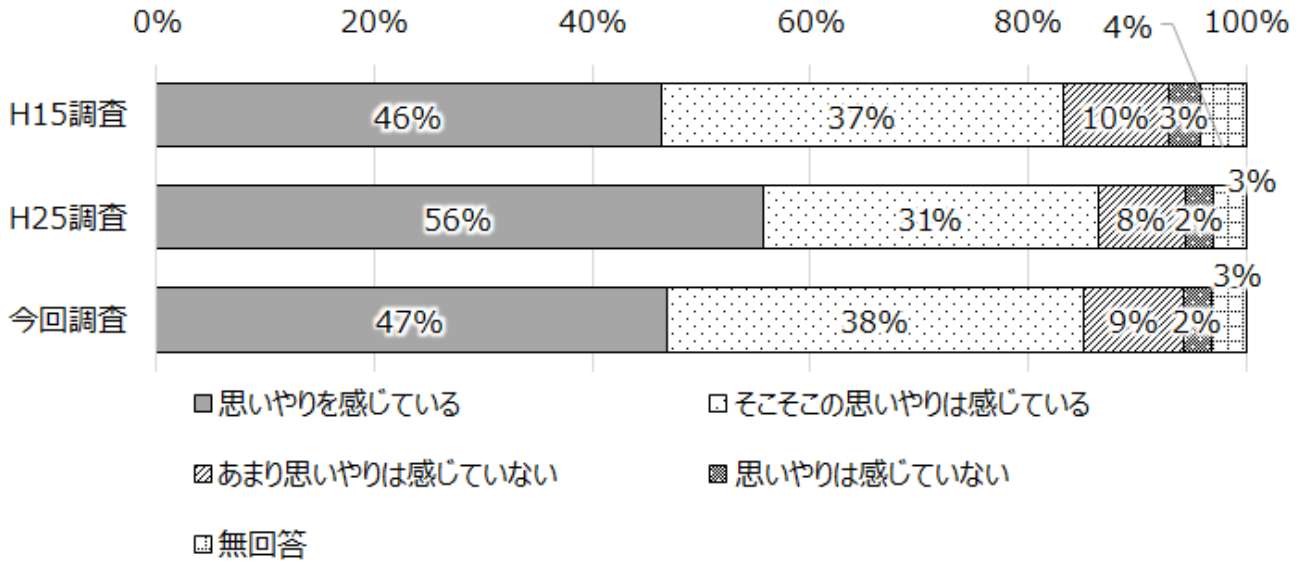
問２：配偶者から「思いやり」を感じていますか（ＳＡ）

「思いやりを感じている」が 47%、「そこそこの思いやりは感じている」が 38%で、「思いやりを感じている」とした人は全体の8割以上となっています。

ただし、男女別にみると「思いやりを感じている」は男性の 61%に対し女性は 37%と低く、「思いやりを感じていない」は男性の 4%に対して女性は 13%と高くなっています。

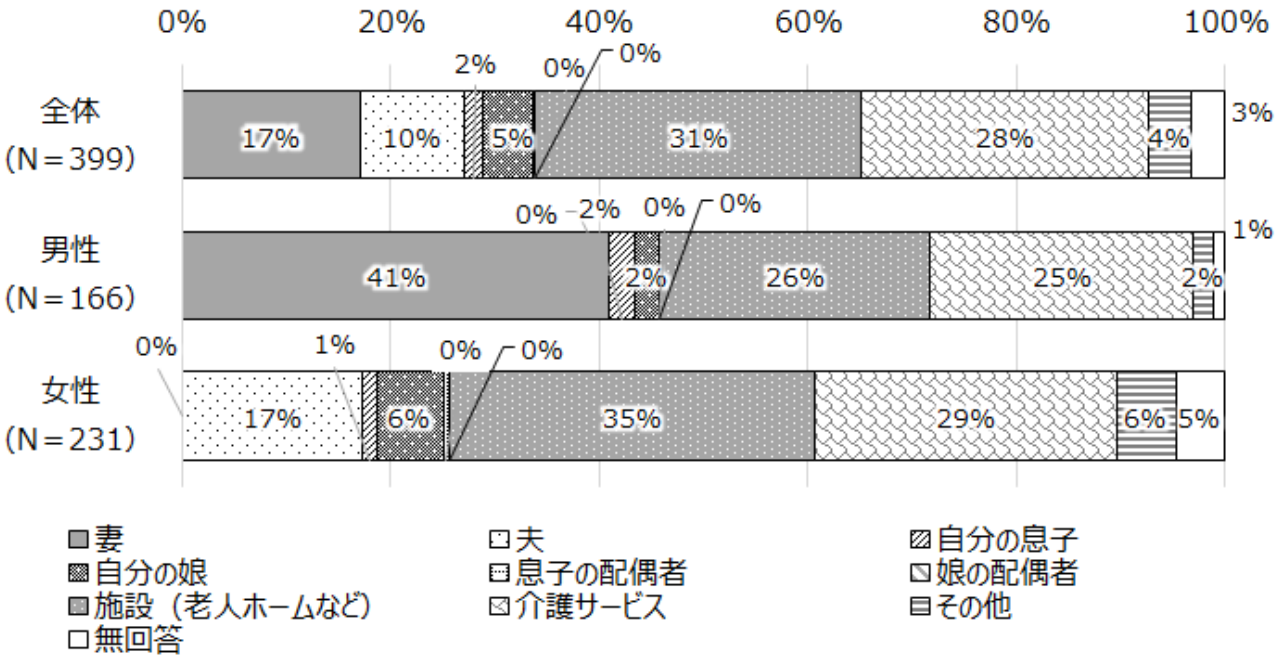
※未婚の方以外への設問





問３：誰に介護してほしいと思いますか（ＳＡ）

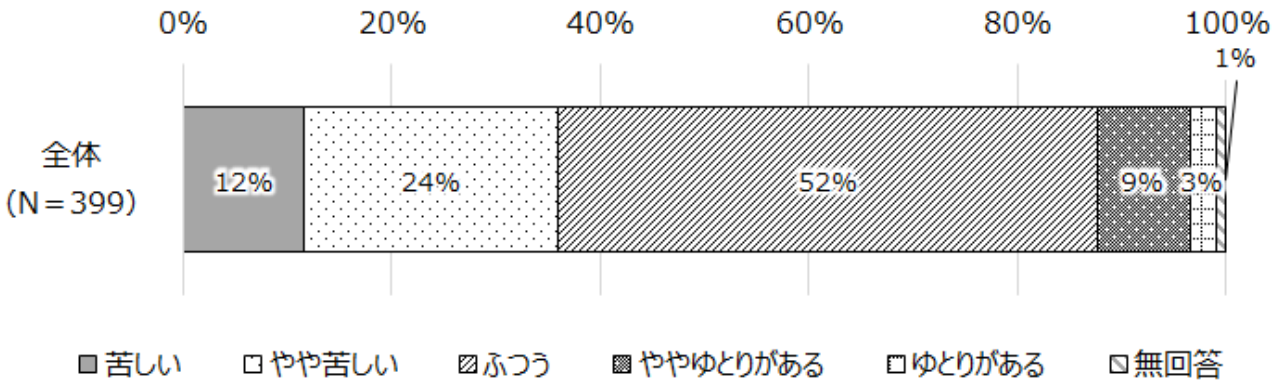
誰に介護してほしいと思いますかについては、「施設（老人ホーム」が最も多く 31%、次いで「介護サービス」28%、「配偶者」27%となっています。



【前回調査】 配偶者：44.2%、自分の娘：10.3%、施設：16.3%、介護サービス：19.7% など

問４：経済的な暮らし向き（ＳＡ）

「ふつう」が最も多く 52%、次いで「やや苦しい」が 24%、「苦しい」が 12%となっています。

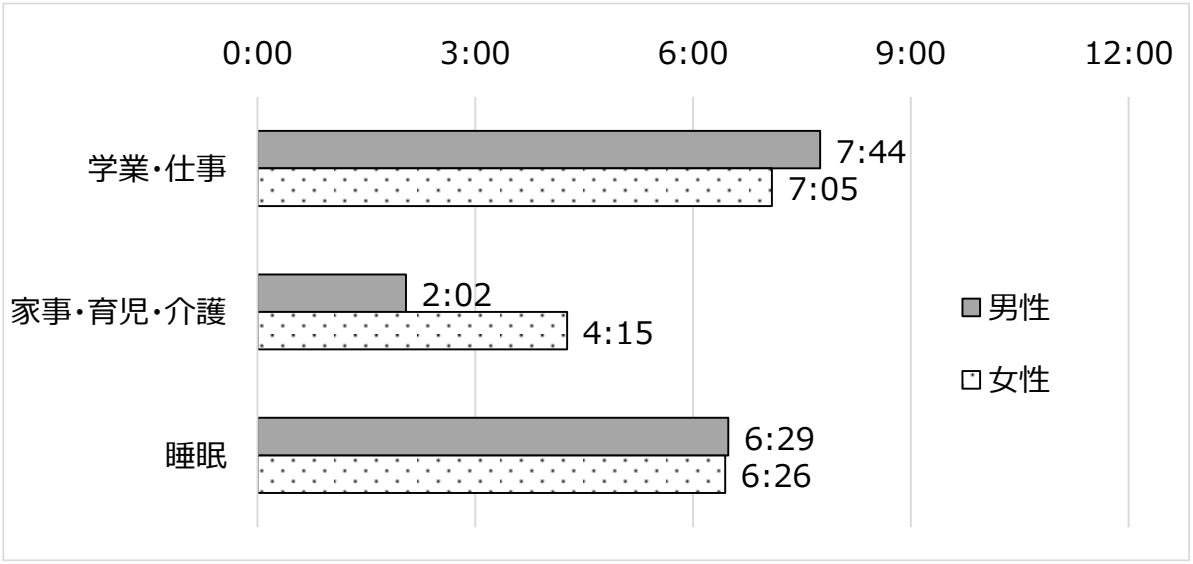


問５：平均的な平日において、あなたが「学業・仕事」「家事・育児・介護」「睡眠」にかけている時間はおおよそどれくらいですか。

「学業・仕事」に関しては、男性が 7 時間 44 分と、女性（7 時間 5 分）よりも 40 分ほど多くなっています。

「家事・育児・介護」に関しては、女性が 4 時間 15 分と、男性（2 時間 2 分）よりも 2 時間以上多くなっています。

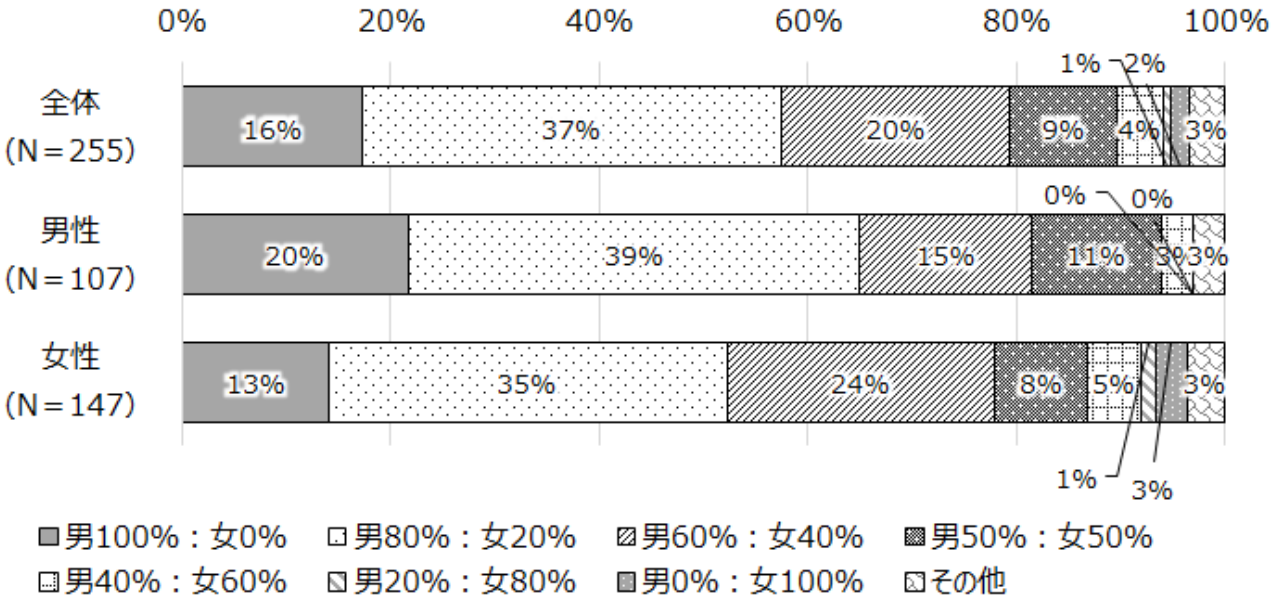
「睡眠」に関しては、男性（6 時間 29 分）、女性（6 時間 26 分）ともほぼ同程度となっています。



問６－１：世帯の合計年収のうち、男女それぞれが稼ぐ割合はおおむねどれくらいですか。（ＳＡ）

「男 80%:女 20%」が 37%と最も多く、次いで「男 60%:女 40%」が 20%、「男 100%:女 0%」が 16%となっています。平均値をとると男性が 72%を稼いでいることになります。

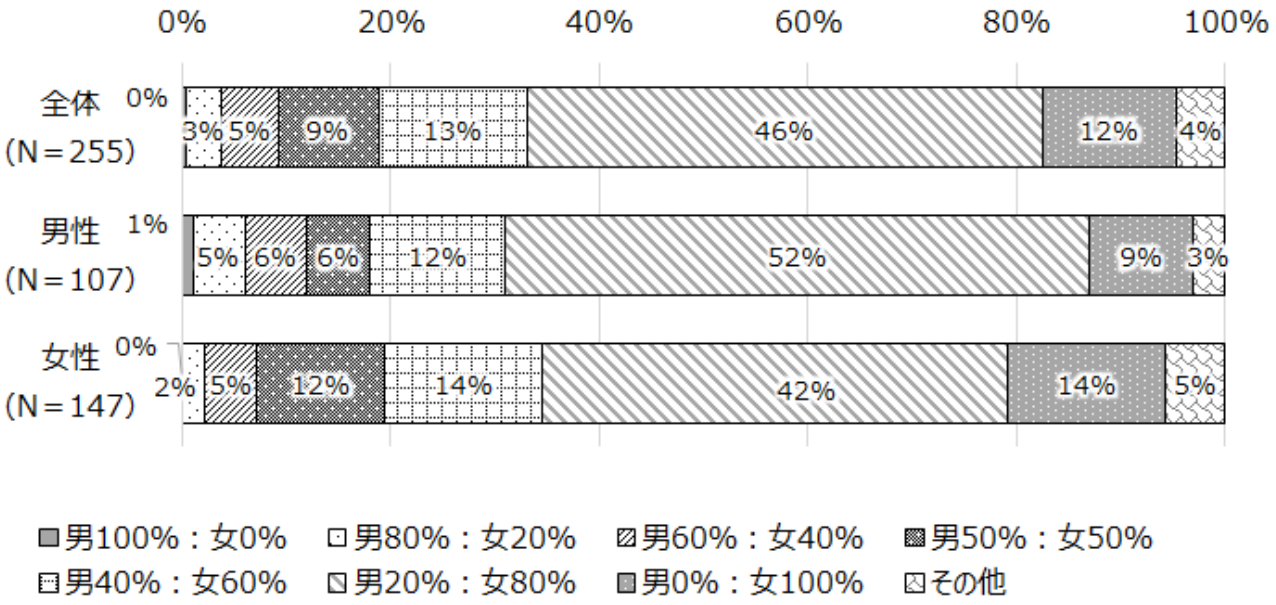
※結婚している方のみへの設問



問６－２：家庭内で、家事・育児・介護などを分担する割合はおおむねどれくらいですか。（ＳＡ）

「男 20%:女 80%」が 46%と最も多く、次いで「男 40%:女 60%」が 13%、「男 0%:女 100%」が 12%となっています。平均値をとると女性が 72%を担っていることになります。

※結婚している方のみへの設問

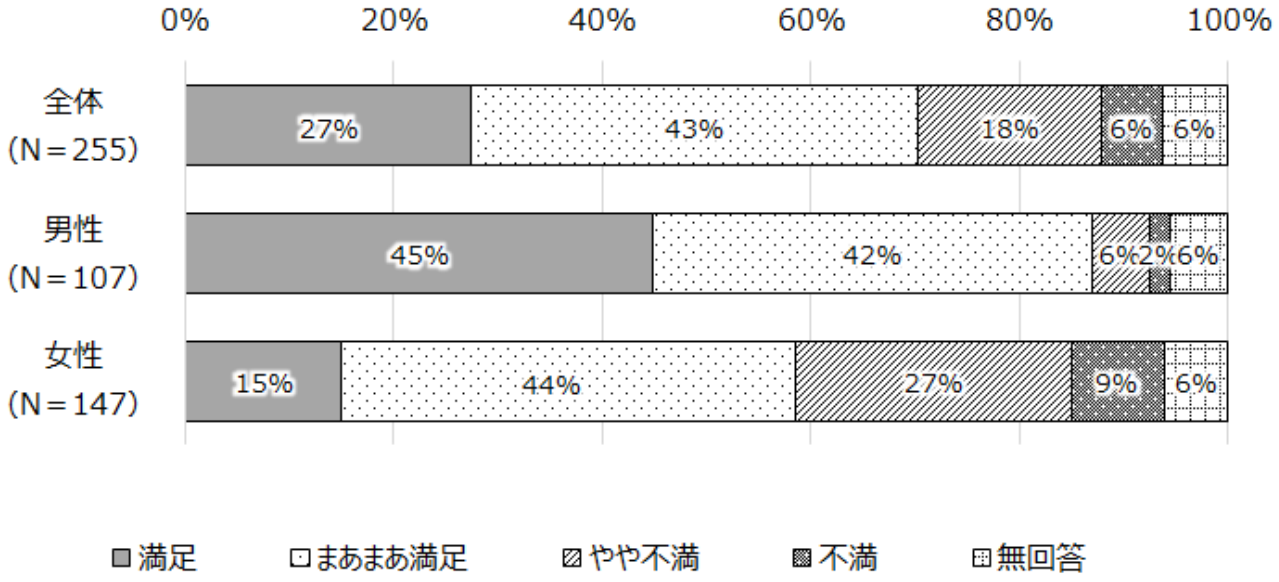


問６－３：配偶者・パートナーとの家事・育児・介護などの分担にどの程度満足していますか。（ＳＡ）

「まあまあ満足」が 43%と最も多く、次いで「満足」が 27%、「やや不満」が 18%となっています。

ただし、男女別にみると「満足」は男性の 45%に対し女性は 15%と低く、「やや不満」は男性の 6%に対して女性は 27%と高くなっています。

※結婚している方のみへの設問

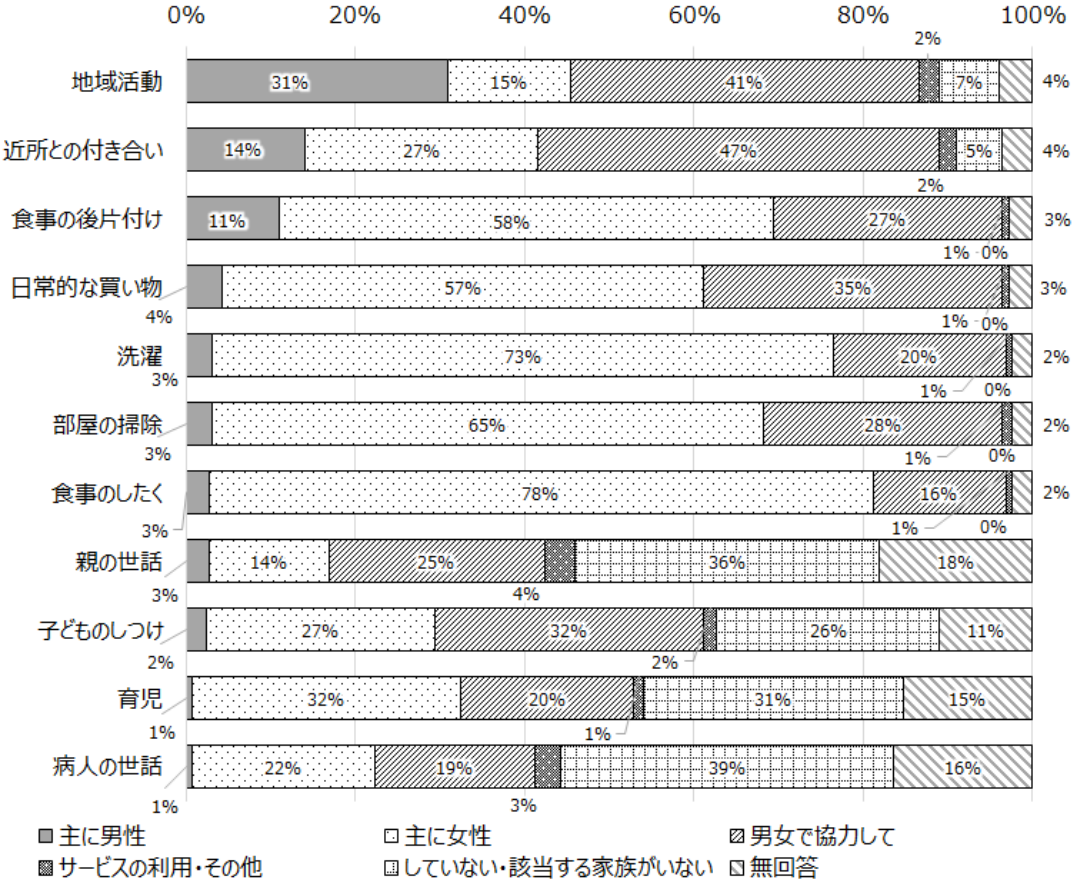


問６－４：あなたの家庭では、次のことは誰がしていますか（ＳＡ）

「主に女性」という回答が多かったのは『食事のしたく』(78%)、『洗濯』(73%)、『部屋の掃除』(65%)、『食事後の後片付け』(58%)、『日常的な買い物』(57%)などとなっています。

一方、「主に男性」という回答が多かったものとしては『地域活動』(31%)があげられます。

※結婚している方のみへの設問



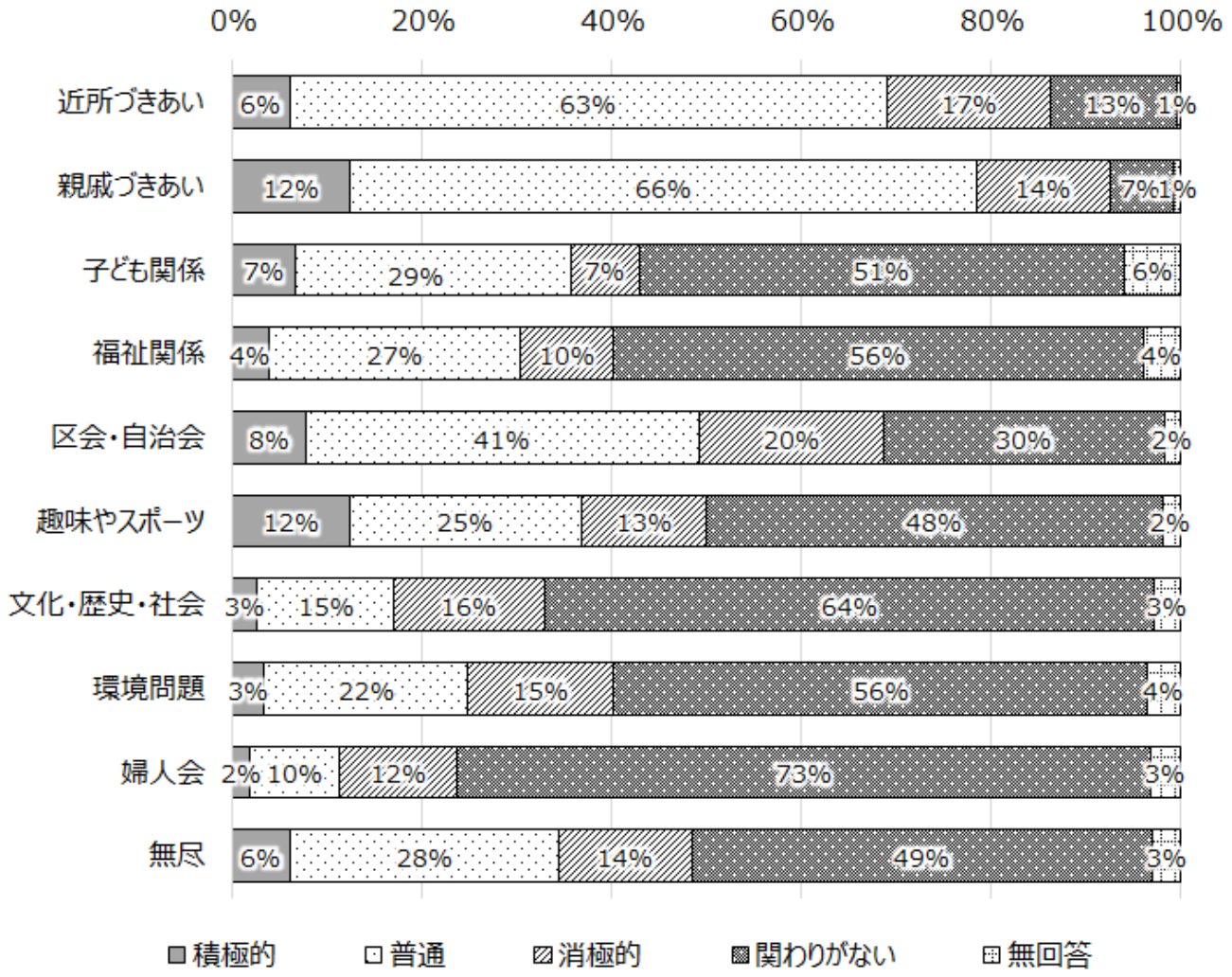
【前回調査】

カテゴリ	主に男性	主に女性	家族が協力して	男女で協力して（夫婦で協力）	していない該当なし	不明	合計
自治会等への参加	27.5	13.6	16.1	29.2	5.4	8.2	100.0
近所との付き合い	7.6	28.6	22.4	31.4	1.4	8.5	100.0
食事の後片付け	5.1	60.9	13.3	13.6	0.3	6.8	100.0
部屋の掃除	4.0	56.9	13.6	17.0	0.6	7.9	100.0
洗濯	3.7	70.0	8.5	9.9	0.8	7.1	100.0
日常的な買い物	3.7	56.1	12.5	19.5	0.6	7.6	100.0
食事のしたく	2.8	72.2	7.4	9.6	0.6	7.4	100.0
親の世話	1.7	14.7	13.3	11.6	41.9	16.7	100.0
病人の世話	1.4	17.6	15.6	9.1	40.2	16.1	100.0
子どものしつけや勉強等	0.8	18.7	13.6	21.8	29.5	15.6	100.0
育児（乳幼児の世話など）	0.3	19.0	10.8	12.2	39.1	18.7	100.0

４．地域生活や地域参加について

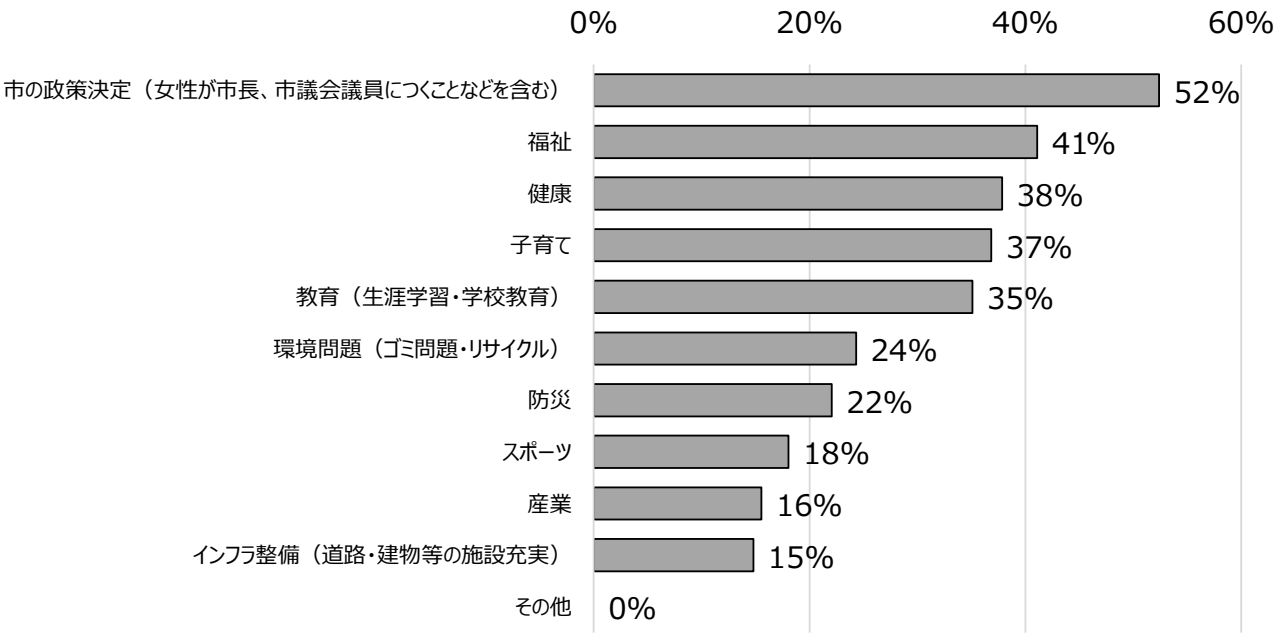
問７：あなたは、地域での活動にはどのように関わっていますか（ＳＡ）

積極的に関わっている割合が高いのは「親戚づきあい」（12%）、「趣味やスポーツ」（12%）となっています。
消極的に関わっている割合が高いのは「区会・自治会」（20%）となっています。



問８ ： 今後、市の仕事の中で、女性がもっと活躍した方がよいと思う分野は次のどれですか。（ＭＡ）

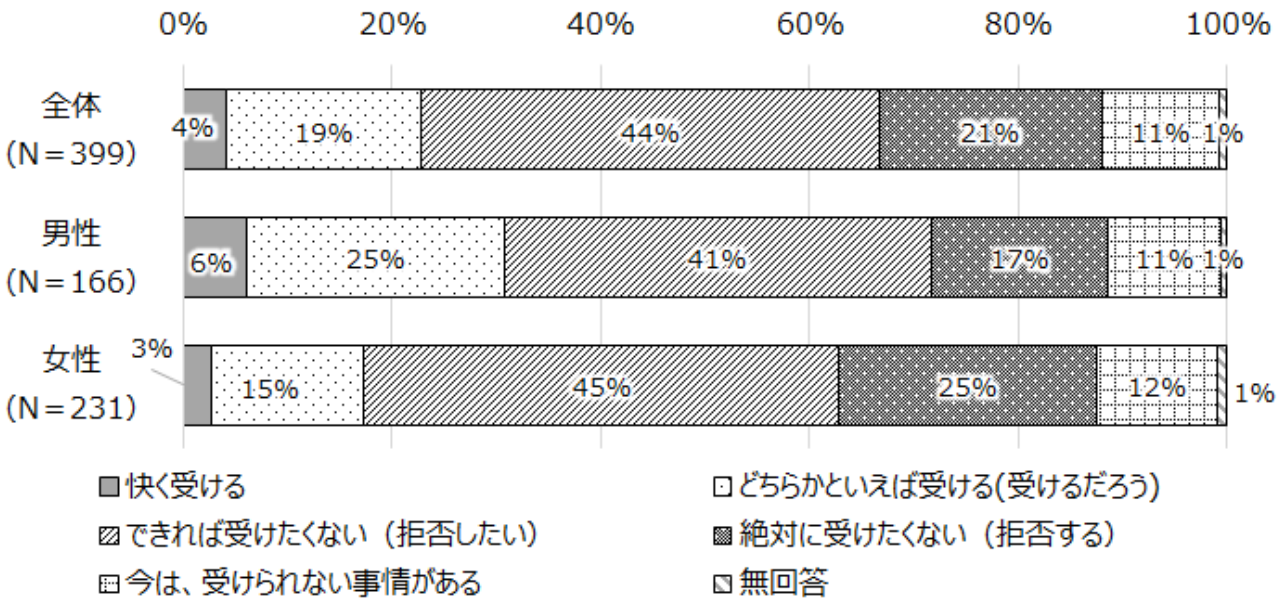
「市の政策決定（女性が市長、市議会議員につくことなどを含む）」が 52%と最も高く、次いで「福祉」が 41%、「健康」が 38%、「子育て」が 37%、「教育」が 35%、「環境問題」が 24%、「防災」が 22%となっています。



【前回調査】 福祉健康：58.7%、環境問題：41.6%、教育：35.8%、防災：34.2%、生活環境：28.7%、長期計画：20.0%、スポーツ：17.4%、産業：11.3% （設問文や一部選択肢には差違あり）

問９：審議会等の公的役員や地区役員を受けますか（ＳＡ）

「できれば受けたくない」が 44%と最も多く、「絶対に受けたくない（拒否する）」が 21%、「どちらかというと受ける（受けるだろう）」が 19%となっています。

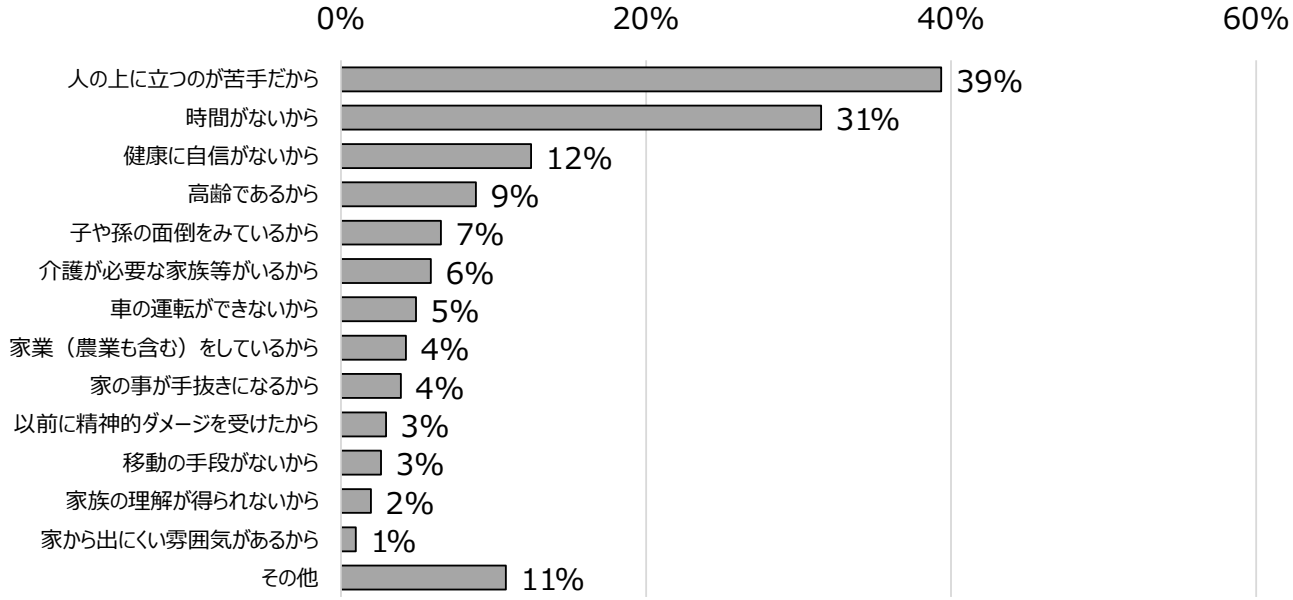


【前回調査】

カテゴリ	%	件数
快く受ける	4.5%	17
どちらかといえば受ける（受けるだろう）	25.3%	96
できれば受けたくない（拒否したい）	37.6%	143
絶対に受けたくない（拒否したい）	10.5%	40
今は、受けられない事情がある	20.8%	79
不明	1.3%	5
サンプル数	100.0%	380

問９－１：受けない理由（ＭＡ）

前の設問で「できれば受けたくない」「絶対に受けたくない」「今は、受けられない事情がある」とした人に受けない理由を聞いたところ、「人の上に立つのが苦手だから」が 39%と最も高く、次いで「時間がないから」が 31%、「健康に自信がないから」が 12%、「高齢であるから」が 9%などとなっています。



【前回調査】

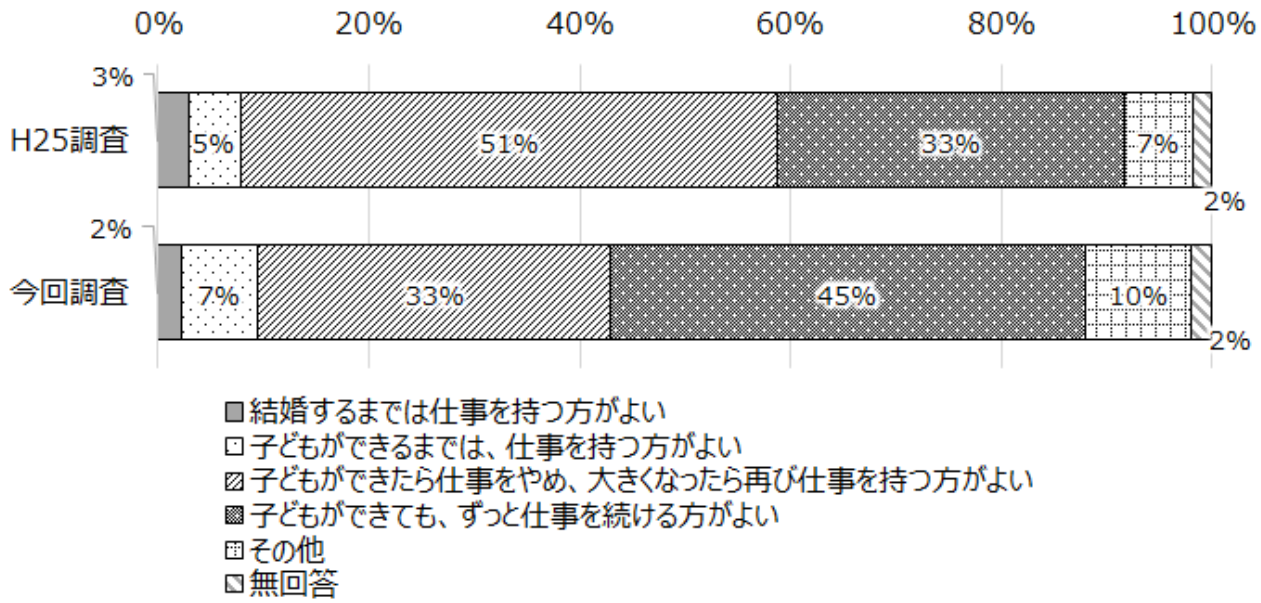
カテゴリ	%	件数
時間がないから	29.0%	76
人の上に立つのが苦手だから	27.9%	73
健康に自信がないから	22.5%	59
高齢であるから	19.1%	50
介護が必要な家族等がいるから	10.7%	28
車の運転ができないから	10.3%	27
家の事が手抜きになるから	5.3%	14
子や孫の面倒をみているから	5.0%	13
家業（農業も含む）をしているから	5.0%	13
移動の手段がないから	4.2%	11
以前に精神的ダメージを受けたから	3.8%	10
家から出にくい雰囲気があるから	1.1%	3
家族の理解が得られないから	0.8%	2
その他	11.1%	29
不明	3.4%	9
サンプル数	100.0%	262

５．仕事について

問 10：一般的に女性が仕事をもつことについて、どれが望ましいと思いますか（ＳＡ）

一般的に女性が仕事をもつことについて、どれが望ましいかは「子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい」が 45%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の 33%となっています。

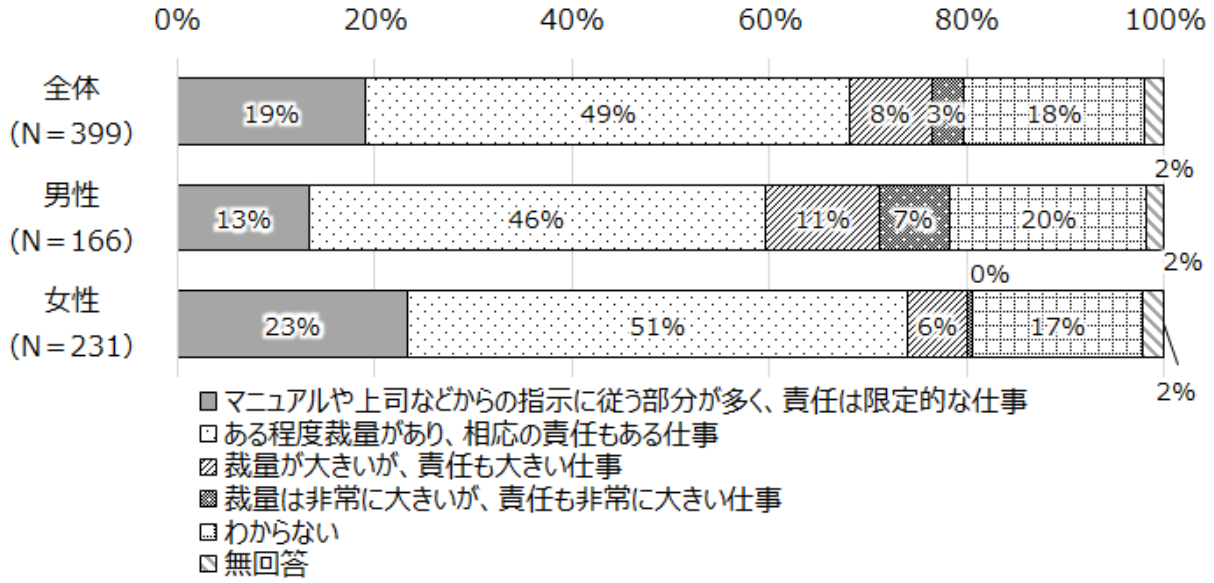
平成25年調査と比較すると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が減少する一方で、「子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増加しています。



問 11：あなたは、どのような立場で仕事をするのが理想ですか。（ＳＡ）

「ある程度裁量があり、相応の責任もある仕事」が 49%と最も高く、次いで「マニュアルや上司などからの指示に従う部分が多く、責任は限定的な仕事」が 19%、「裁量が大きいが責任も大きい仕事」が 8%、「裁量は非常に大きいが責任も非常に大きい仕事」が 3%となっています。

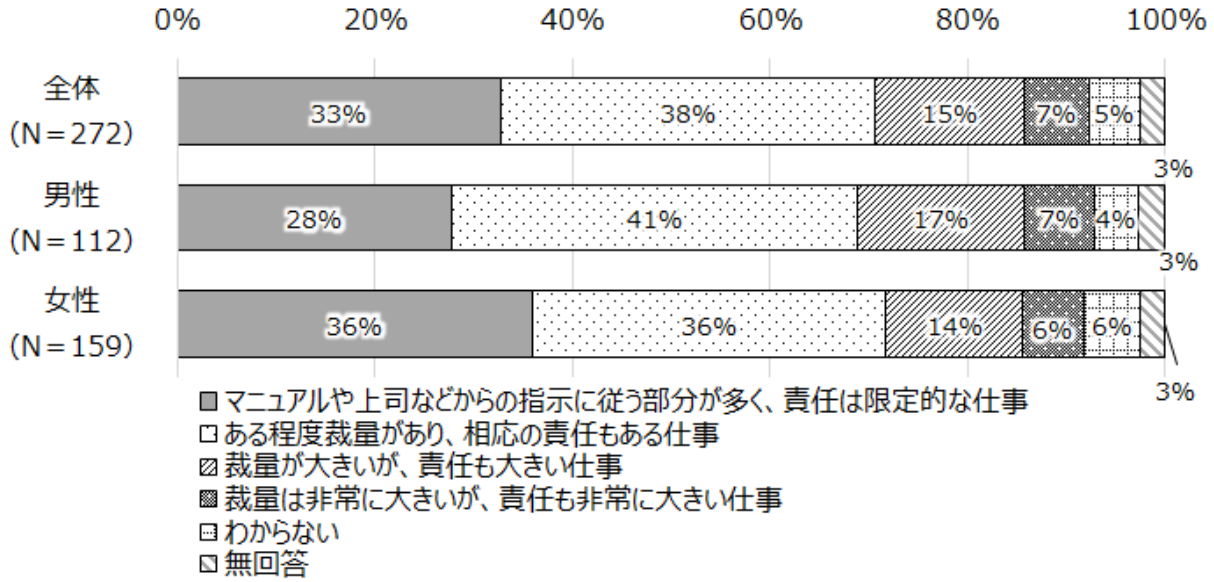
男女別にみると、「裁量が大きいが責任も大きい仕事」は男性の 11%に対して女性は 6%、「裁量は非常に大きいが責任も非常に大きい仕事」」は男性の 7%に対して女性は 0%と差違が見受けられます。



問 12：あなたの現在の仕事上の立場は、次のうちどれに近いですか。（ＳＡ）

「ある程度裁量があり、相応の責任もある仕事」が 38%と最も高く、次いで「マニュアルや上司などからの指示に従う部分が多く、責任は限定的な仕事」が 33%、「裁量が大きいが責任も大きい仕事」が 15%、「裁量は非常に大きいが責任も非常に大きい仕事」が 7%となっています。

※仕事をしている方のみへの設問

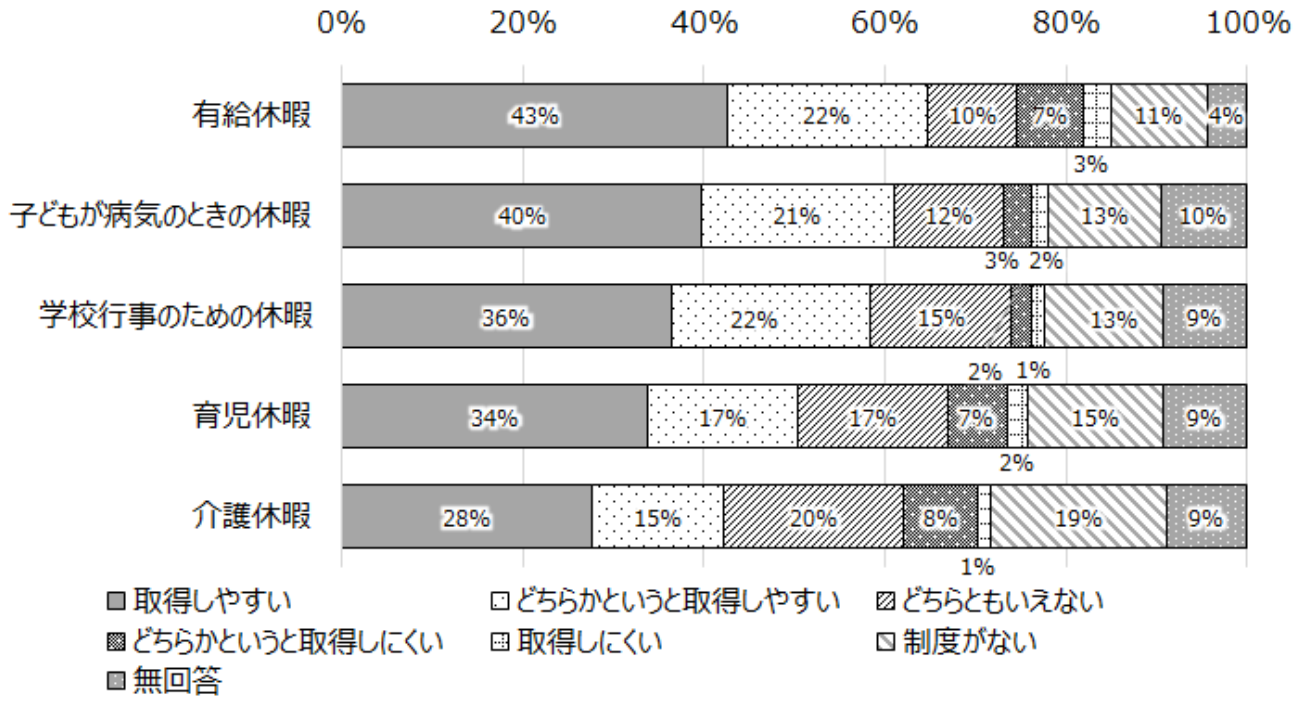


問 13：あなたの職場は次の休暇が取得しやすいですか（ＳＡ）

取得しやすいという回答が多かったのは『有給休暇』(43%)、『子どもが病気のときの休暇』(40%)などとなっています。

平成25年調査と比較すると、各休暇とも「取得しやすい」という回答が増加している傾向が見受けられます。

※仕事をしている方のみへの設問



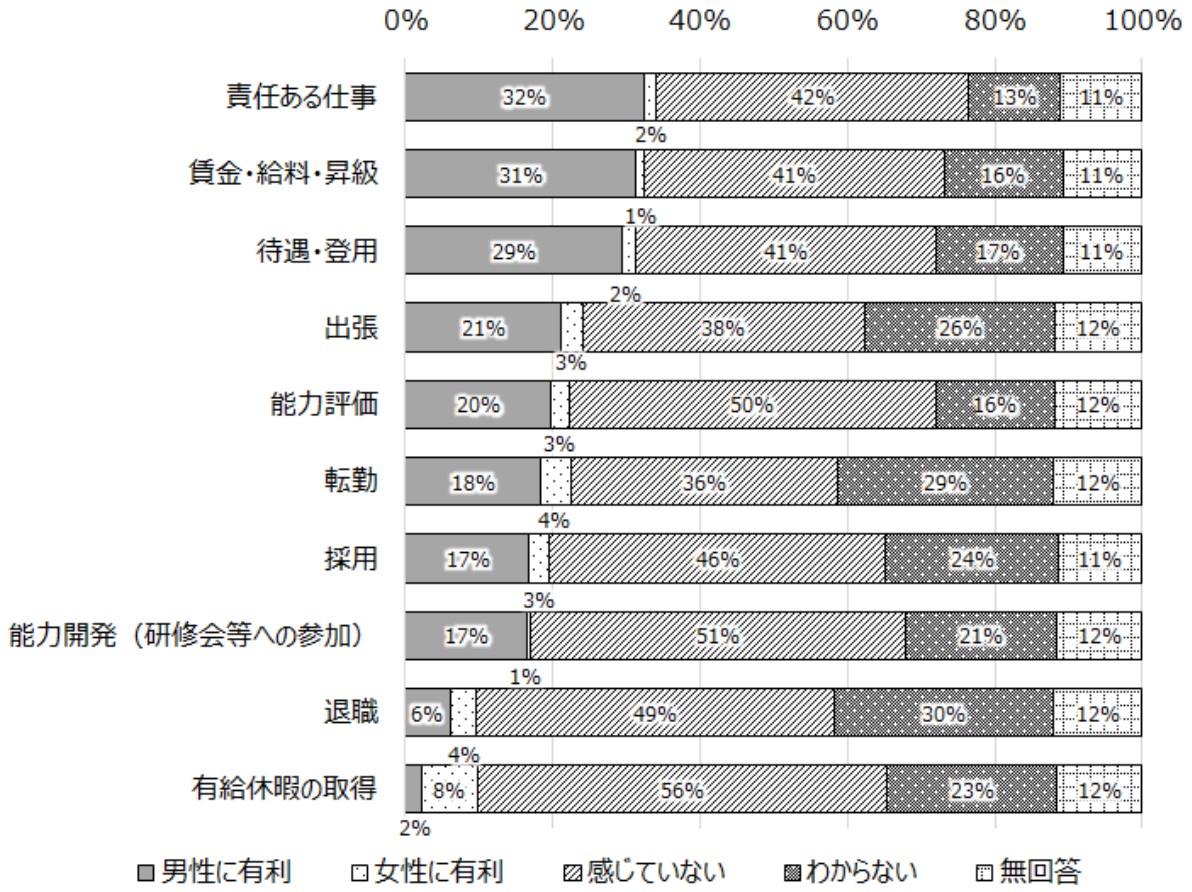
【前回調査】

カテゴリ	取得しやすい	どちらかというと取得しやすい	どちらともいえない	取得しやすいとはいえない	取得しにくい	不明	合計
子どもが病気のときの休暇	28.2	19.8	14.9	6.4	6.9	23.8	100.0
有給休暇	26.2	16.8	16.8	7.4	13.4	19.3	100.0
学校行事のための休暇	25.2	21.3	14.9	4.5	9.4	24.8	100.0
育児休暇	22.3	11.4	16.8	6.4	18.3	24.8	100.0
介護休暇	16.8	13.4	19.3	10.4	18.3	21.8	100.0

問 14：職場や仕事上で次のことについて男女の不平等を感じていますか（感じていると思いますか）
（ＳＡ）

「男性に有利」という回答が相対的に多いのは、「責任ある仕事」（32%）、「賃金・給料・昇給」（31%）、「待遇・登用」（29%）などとなっています。

平成25年調査と比較すると、全体的に「感じていない」という回答が増加している傾向が見受けられます。



【前回調査】

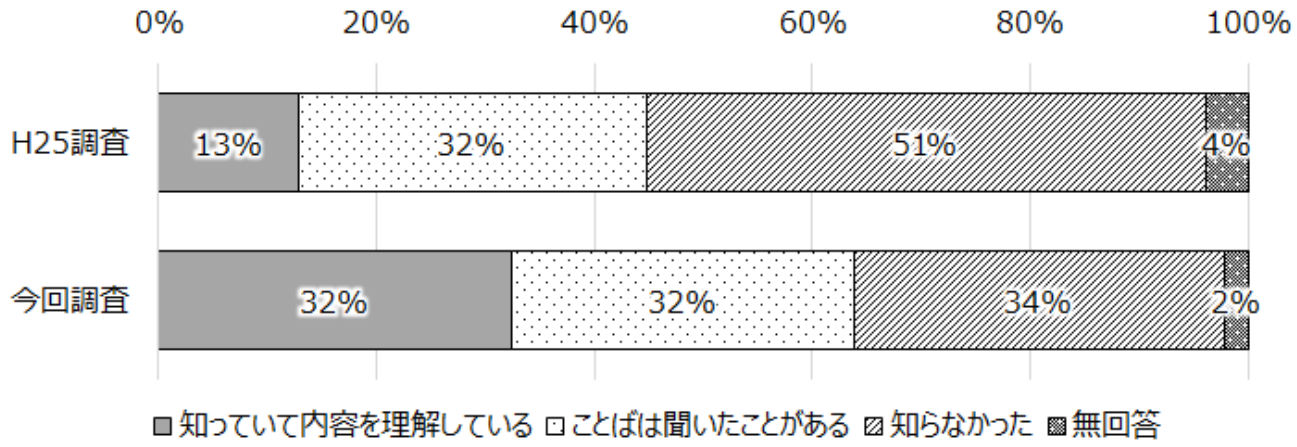
カテゴリ	男性に有利	女性に有利	感じていない	わからない	不明	合計
責任ある仕事	39.7	0.8	25.0	13.4	21.1	100.0
賃金・給料・昇級	38.7	0.8	26.8	14.5	19.2	100.0
待遇・登用	33.9	1.3	27.4	16.1	21.3	100.0
出張	27.4	1.3	26.1	23.4	21.8	100.0
能力評価	26.6	0.5	33.9	17.1	21.8	100.0
転勤	23.9	5.3	22.1	26.3	22.4	100.0
能力開発（研修会等への参加）	22.1	0.3	34.5	21.6	21.6	100.0
採用	22.1	2.9	30.8	22.1	22.1	100.0
退職	12.9	4.7	34.7	25.8	21.8	100.0
有給休暇の取得	8.2	9.2	38.9	22.9	20.8	100.0

６．仕事と家庭・地域社会のバランスについて

問 15：あなたは「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）について、知っていましたか（ＳＡ）

「知っていて内容を理解している」、「ことばは聞いたことがある」、「知らなかった」がそれぞれ 1/3 程度となっています。

平成25年調査と比較すると、「知らなかった」が減少し、「知っていて内容を理解している」が増加している傾向が見受けられます。



【前回調査】

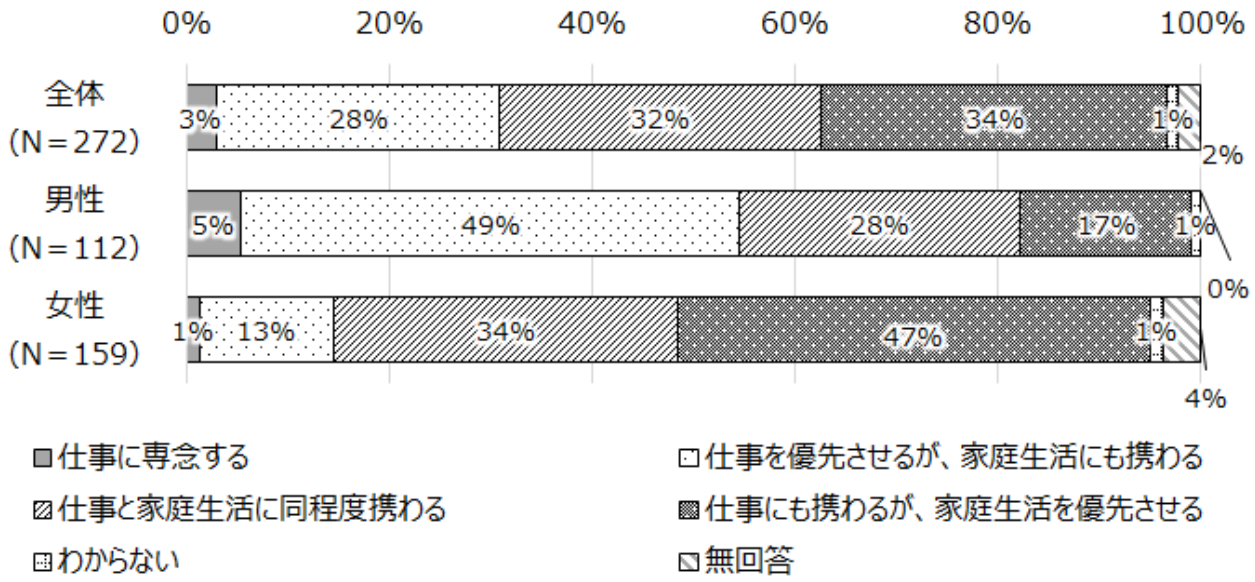
カテゴリ	%	件数
知っていて内容を理解している	12.9%	49
ことばは聞いたことがある	31.8%	121
知らなかった	51.3%	195
不明	3.9%	15
サンプル数	100.0%	380

問 16：（１）仕事と、家庭生活との関わり方について、希望する関わり方は次のうちどれですか（ＳＡ）

希望する関わり方は、「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動の方を優先させる」が 34%と最も多く、「仕事と家庭生活に同程度携わる」（32%）とともに、「仕事を優先させるが、家庭生活にも携わる」（28%）を上回っています。

男女別にみると、男性は「仕事を優先させるが、家庭生活にも携わる」が 49%と最も多くなっています。一方、女性は「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動の方を優先させる」が 47%と最も多くなっています。

※働いている人のみへの設問



【前回調査】

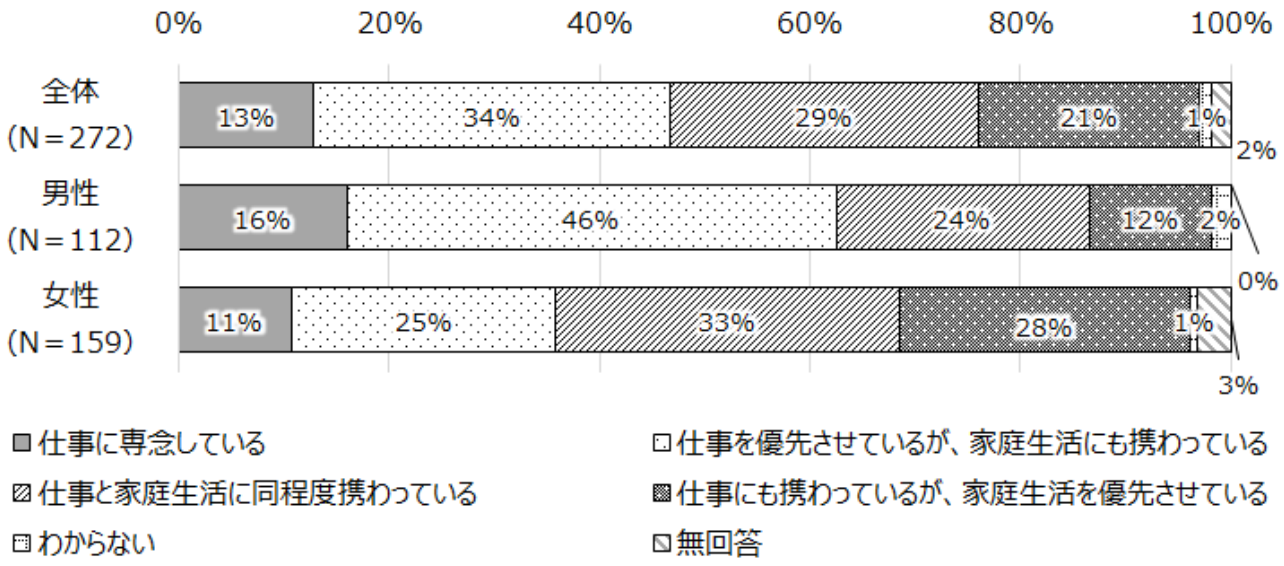
カテゴリ	%	件数
仕事に専念する	5.4%	11
あくまで仕事を優先させるが、家庭生活や地域活動にも携わる	41.1%	83
仕事と、家庭生活や地域活動を両立させる	36.1%	73
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動の方を優先させる	7.9%	16
家庭生活や地域活動に専念する	0.0%	0
わからない	4.0%	8
不明	5.4%	11
サンプル数	100.0%	202

前回は家庭生活や地域活動に関して聞いている。

問 16：（２）現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか（ＳＡ）

現在の状況については、「仕事を優先させるが、家庭生活にも携わっている」が最も多く 34%となっています。

※働いている人のみへの設問

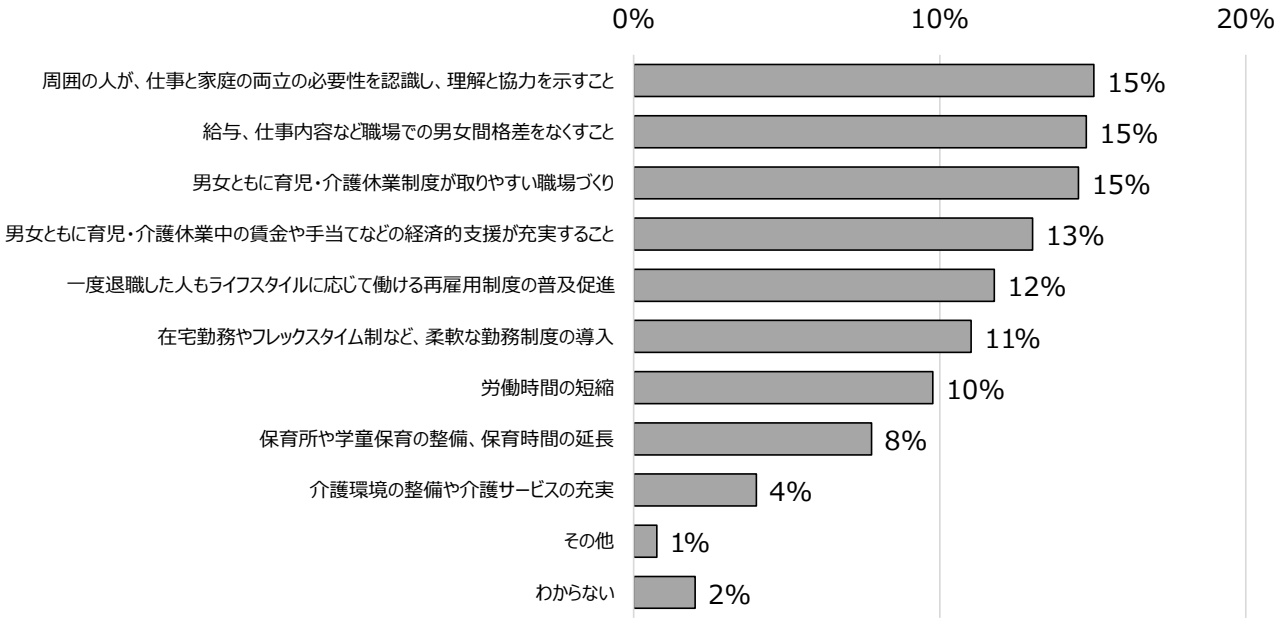


【前回調査】

カテゴリ	%	件数
仕事に専念する	14.4%	29
あくまで仕事を優先させるが、家庭生活や地域活動にも携わる	45.5%	92
仕事と、家庭生活や地域活動を両立させる	21.8%	44
仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動の方を優先させる	8.4%	17
家庭生活や地域活動に専念する	1.5%	3
わからない	4.0%	8
不明	4.5%	9
サンプル数	100.0%	202

問 17：男女が共に、仕事と家庭生活を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか（ＭＡ）

「周囲の人が、仕事と家庭の両立の必要性を認識し、理解と協力を示すこと」（15%）、「給与、仕事内容など職場での男女間格差をなくすこと」（15%）、「男女ともに育児・介護休業制度が取りやすい職場づくり」（15%）などが多くなっています。



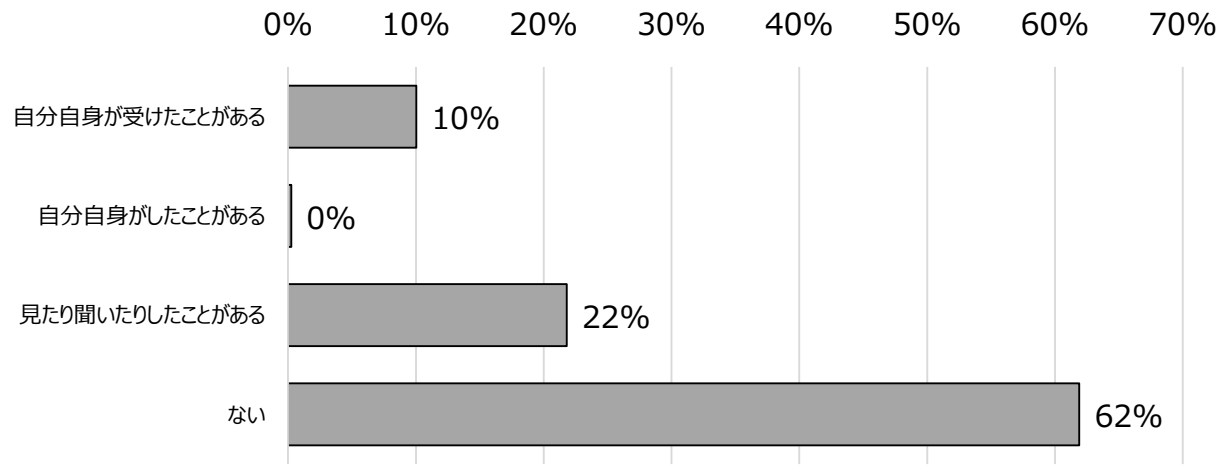
【前回調査】

カテゴリ	%	件
一度退職した人もライフスタイルに応じて働ける再雇用制度の普及促進	36.6%	74
周囲の人が、仕事と家庭の両立の必要性を認識し、理解と協力を示すこと	36.1%	73
男女ともに育児・介護休業制度が取りやすい職場づくり	35.6%	72
労働時間の短縮	29.7%	60
男女ともに育児・介護休業中の賃金や手当てなどの経済的支援が充実すること	24.8%	50
給与、仕事内容など職場での男女間格差をなくすこと	23.8%	48
保育所や学童保育の整備、保育時間の延長	21.8%	44
介護環境の整備や介護サービスの充実	19.3%	39
在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度の導入	18.3%	37
その他	2.5%	5
わからない	4.5%	9
サンプル数	100.0%	202

７．性的嫌がらせ（セクシャル・ハラスメント）について

問 18：あなたの身近なところ（職場、地域、学校）に性的嫌がらせがありますか（ＳＡ）

「自分自身が受けたことがある」は 10%、「見たり聞いたりしたことがある」は 22%となっています。

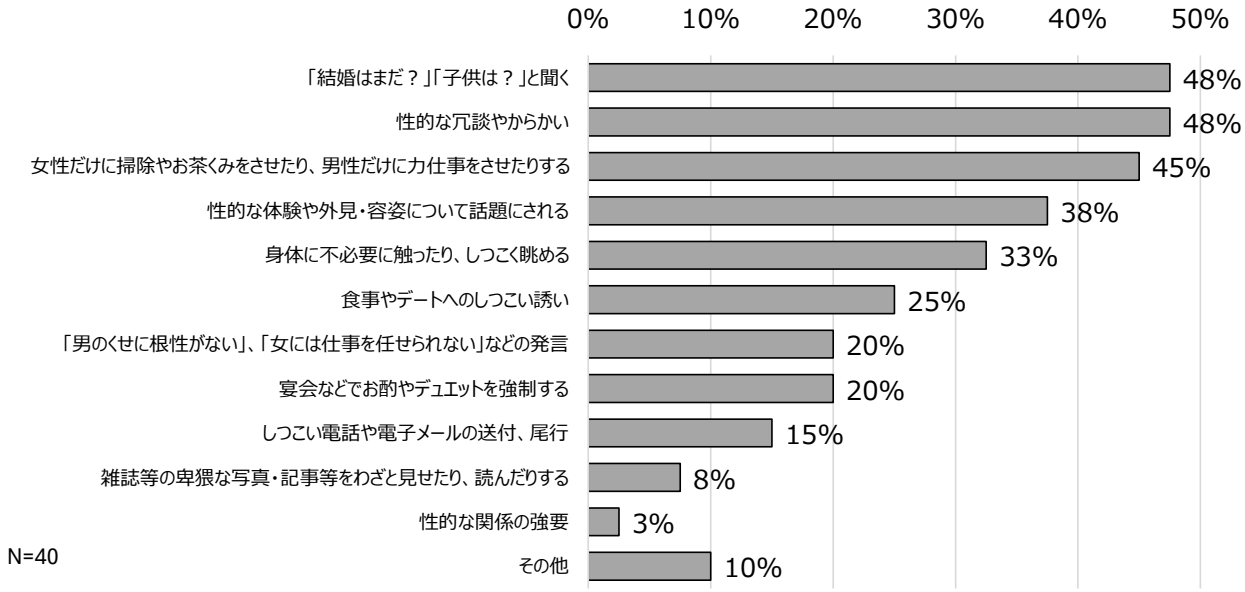


【前回調査】

カテゴリ	%	件数
自分自身が受けたことがある	3.4%	13
自分自身がしたことがある	1.1%	4
見たり聞いたりしたことがある	11.3%	43
ない	44.5%	169
不明	39.7%	151
サンプル数	100.0%	380

問 18-１：その内容はどのようなものでしたか（ＭＡ）

性的嫌がらせを「自分自身が受けたことがある」とした人に、その内容について聞いたところ「『結婚はまだ？』、『子供は？』と聞く」（48%）、「性的な冗談やからかい」（48%）、「女性だけに掃除やお茶くみをさせたり、男性だけに力仕事をさせたりする」（45%）などが多くなっています。

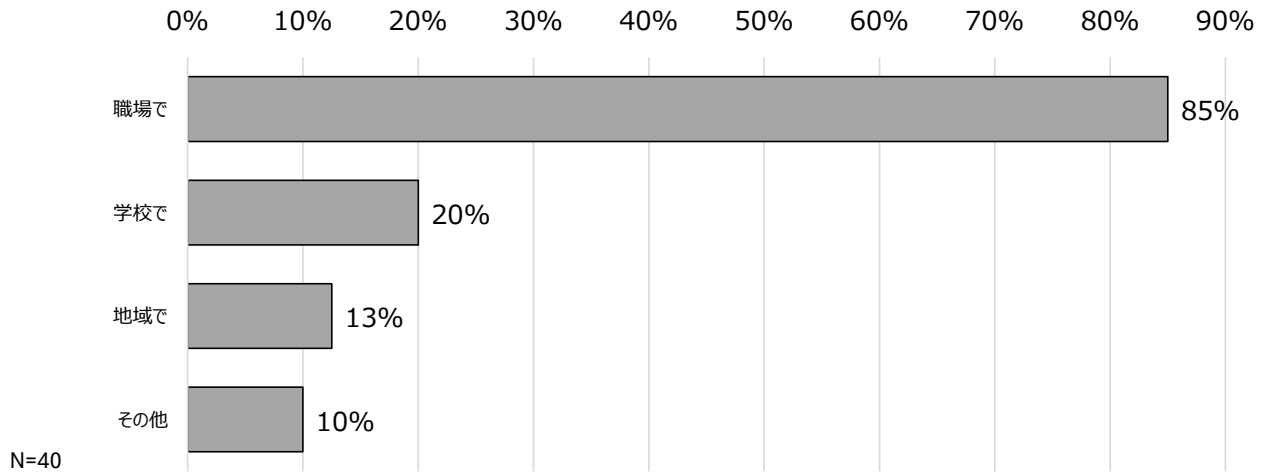


【前回調査】

カテゴリ	%	件数
性的な冗談やからかい	53.8%	7
女性だけに掃除やお茶くみをさせたり、男性だけに力仕事をさせたりする	38.5%	5
「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」などの発言	38.5%	5
食事やデートへのしつこい誘い	38.5%	5
「結婚はまだ？」「子供は？」と聞く	30.8%	4
宴会などでお酌やデュエットを強制する	15.4%	2
しつこい電話や電子メールの送付、尾行	15.4%	2
身体に不必要に触ったり、しつこく眺める	15.4%	2
性的な関係の強要	15.4%	2
性的な体験や外見・容姿について話題にされる	7.7%	1
雑誌等の卑猥な写真・記事等をわざと見せたり、読んだりする	0.0%	0
その他	7.7%	1
不明	15.4%	2
サンプル数	100.0%	13

問 19：その性的嫌がらせはどこで行われましたか（ＭＡ）

性的嫌がらせを「自分自身が受けたことがある」とした人に、性的嫌がらせを受けた場所について聞いたところ、最も多かったのは「職場で」の 85%、次いで「学校で」（20%）、「地域で」（13%）となっています。

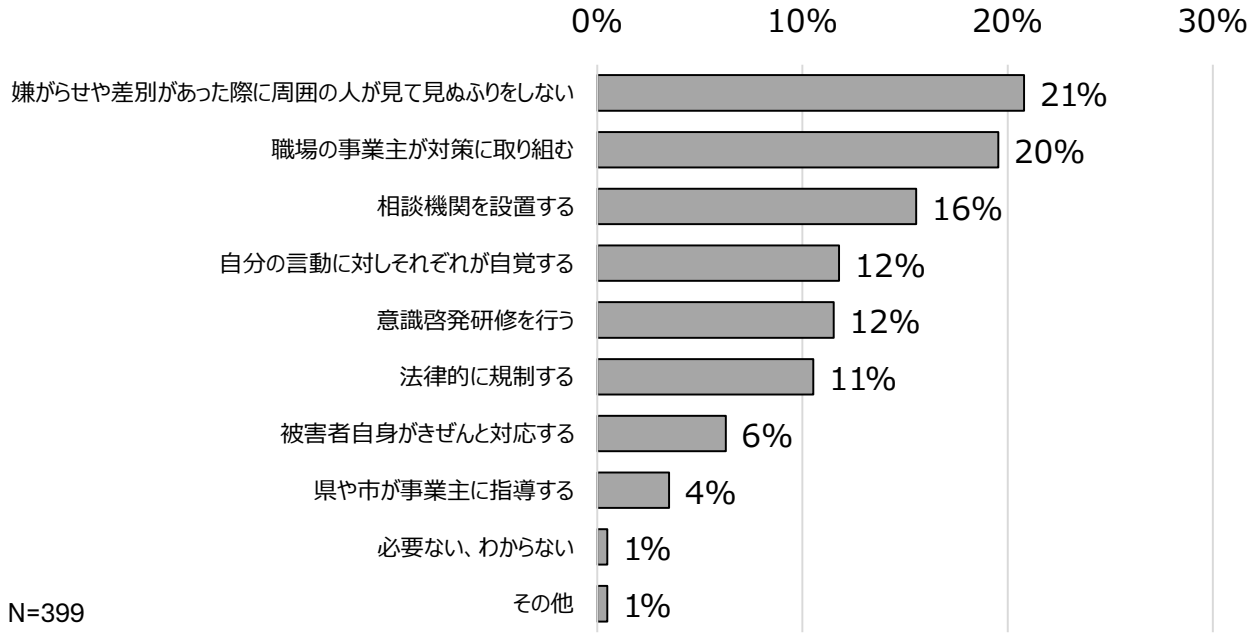


【前回調査】

カテゴリ	%	件数
職場で	61.5%	8
学校で	7.7%	1
地域で	7.7%	1
その他	0.0%	0
不明	23.1%	3
サンプル数	100.0%	13

問 20：性的嫌がらせを防止するためには、どんなことが必要だと思いますか（ＭＡ）

「性的嫌がらせを防止するためには、どんなことが必要だと思いますか」については、「嫌がらせや差別があった際に周囲の人が見て見ぬふりをしない」が 21%と最も多く、次いで「職場の事業主が対策に取り組む」が 20%、「相談機関を設置する」が 16%となっています。



【前回調査】

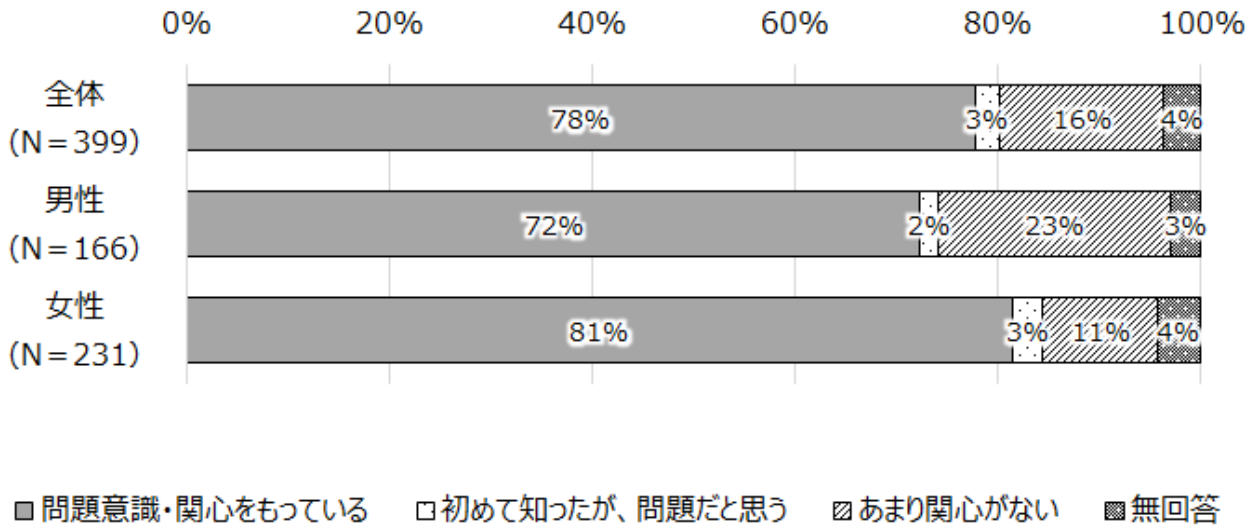
カテゴリ	%	件数
職場の事業主が対策に取り組む	32.1%	122
相談機関を設置する	23.2%	88
法律的に規制する	22.4%	85
自分の言動に対しそれぞれが自覚する	22.1%	84
被害者自身がきぜんと対応する	18.2%	69
被害者のカウンセリングを進める	8.2%	31
県や市が事業主に指導する	6.1%	23
必要ない、わからない	2.4%	9
その他	1.1%	4
不明	44.5%	169
サンプル数	100.0%	380

８．家庭内・家族間で起こる暴力（ＤＶ：ドメスティックバイオレンス）について

問 21：家庭内・家族間、特にパートナー（夫・妻・恋人）からの肉体的・精神的な暴力に対して、問題意識をもっていますか（ＭＡ）

家庭内･家族間、特にパートナー(夫･妻･恋人)からの肉体的･精神的な暴力に対して、問題意識をもっているかは、｢問題意識･関心をもっている｣が 78%となっています。

男女別にみると、女性のほうが｢問題意識･関心をもっている｣割合が多くなっています。

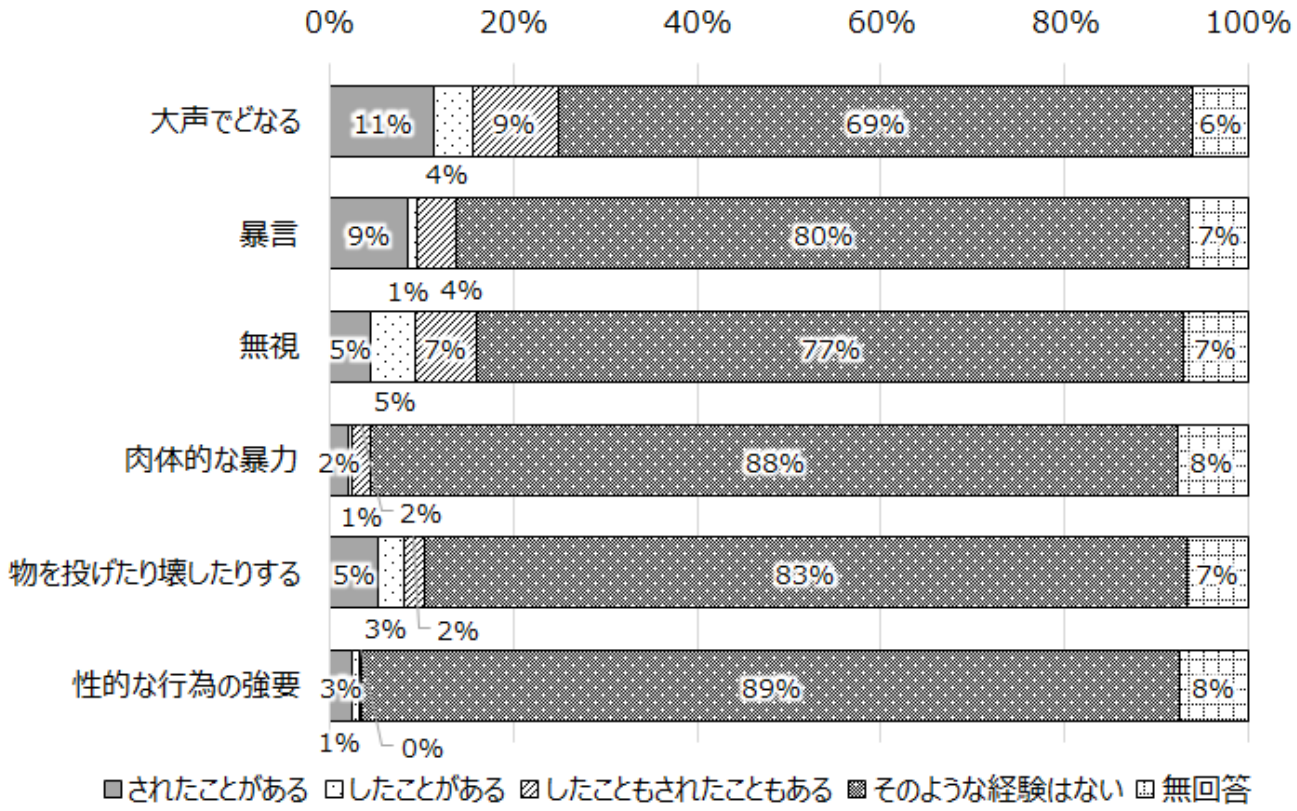


【前回調査】

カテゴリ	%	件数
問題意識･関心をもっている	50.5%	192
初めて知ったが、問題だと思う	3.7%	14
あまり関心がない	11.1%	42
不明	34.7%	132
サンプル数	100.0%	380

問 22：過去５年くらいの間において、次に挙げるような男女間（夫婦・恋人）での暴力についての経験がありますか（ＳＡ）

「されたことがある」という回答が最も多かったのは『大声でどなる』で 11%、次いで『暴言』が 9%となっています。

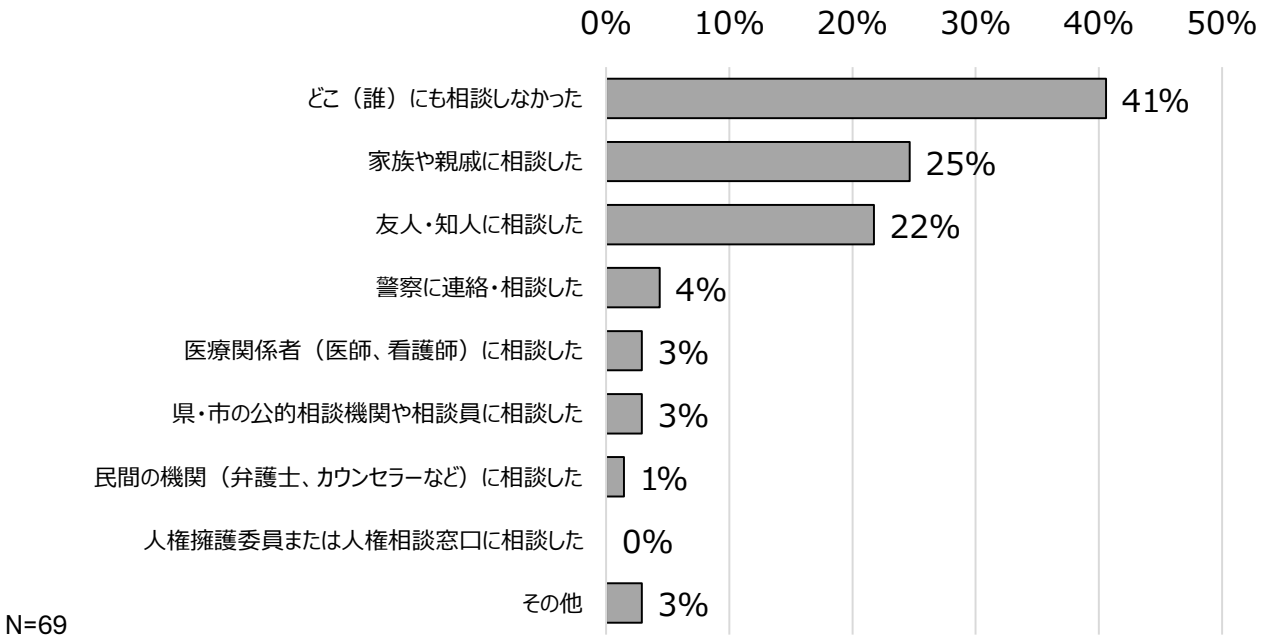


【前回調査】

カテゴリ	されたことがある	したことがある	したこともされたこともある	そのような経験はない	不明	サンプル数
大声でどなる	10.0	6.8	8.9	39.2	35.0	100.0
人格を否定するような暴言や、監視などの精神的嫌がらせをする	6.3	2.1	2.9	51.8	36.8	100.0
何を言っても無視する	3.7	3.4	7.1	48.9	36.8	100.0
物を投げたり壊したりする	2.9	2.1	2.6	55.5	36.8	100.0
肉体的な暴力をふるう	1.8	1.3	2.9	57.4	36.6	100.0
嫌がっているのに性的な行為を強要する	1.8	0.8	1.6	58.4	37.4	100.0
その他	0.5	0.0	0.3	6.8	92.4	100.0

問 23：そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか（ＭＡ）

前の設問で「何らかの暴力を『されたことがある』」に１つでも○をつけた方へ「そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか」を聞いたところ、「どこ（誰）にも相談しなかった」が最も多く 41%となっています。次いで「家族や親戚に相談した」が 25%、「友人・知人に相談した」が 22%となっています。



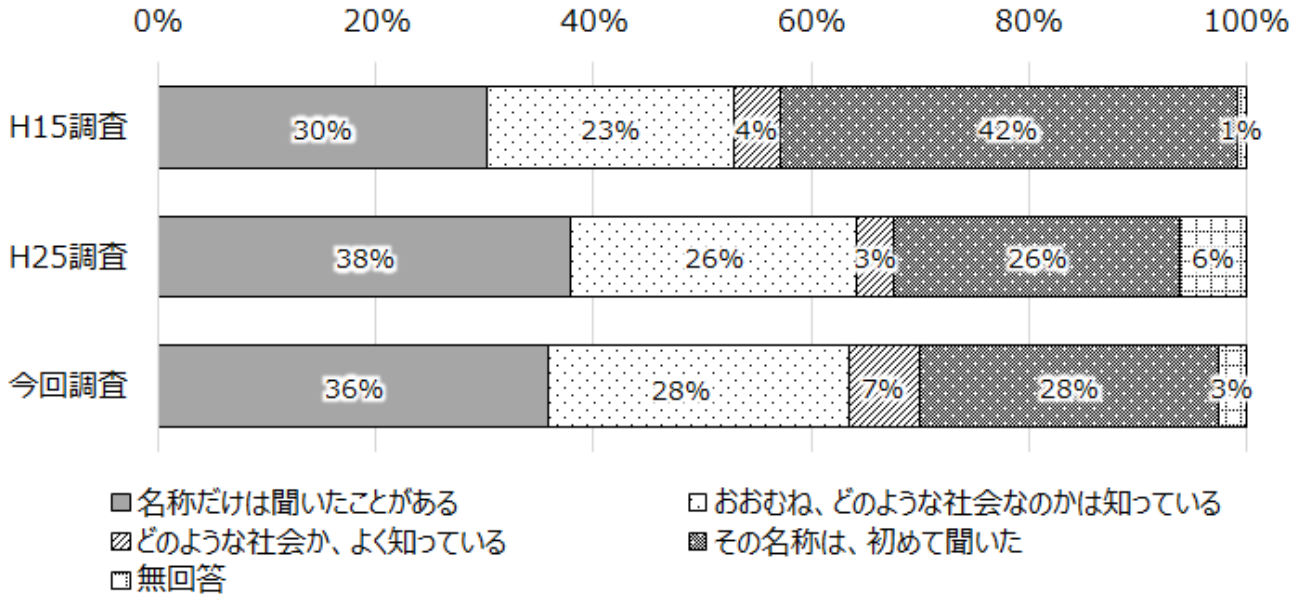
【前回調査】

カテゴリ	%	件数
どこ（誰）にも相談しなかった	38.3%	18
友人・知人に相談した	31.9%	15
家族や親戚に相談した	17.0%	8
医療関係者（医師、看護師）に相談した	4.3%	2
県・市の公的相談機関や相談員に相談した	4.3%	2
警察に連絡・相談した	2.1%	1
人権擁護委員または人権相談窓口に相談した	0.0%	0
民間の機関（弁護士、カウンセラーなど）に相談した	0.0%	0
その他	12.8%	6
不明	12.8%	6
サンプル数	100.0%	47

９． 男女共同参画社会の実現について

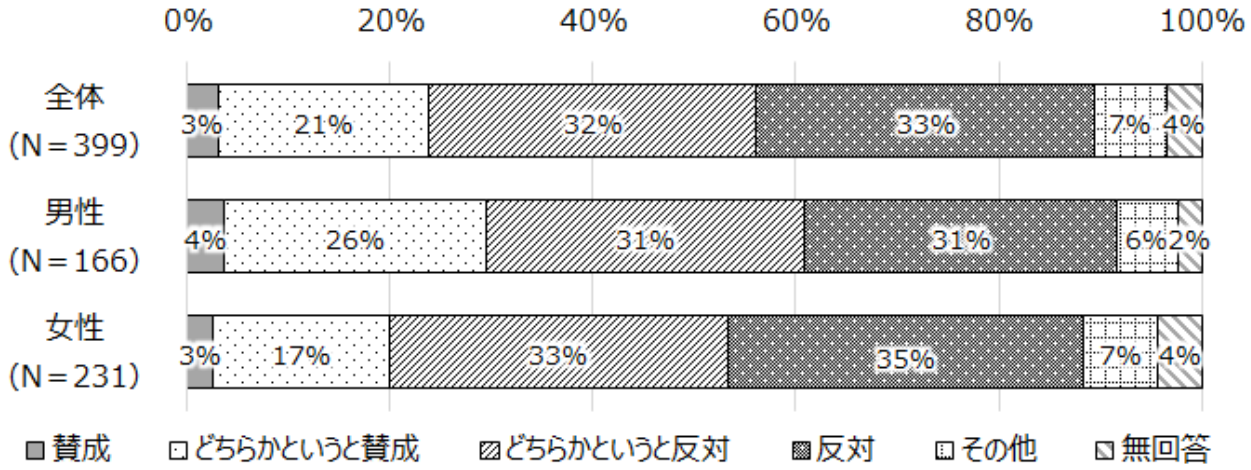
問 24：あなたは「男女共同参画社会」をご存知ですか（ＳＡ）

男女共同参画社会の認知度については、「名称だけは聞いたことがある」が 36%と最も高く、次いで「おおむね、どのような社会なのかは知っている」が 28%、「その名称は、初めて聞いた」が 28%、「どのような社会か、よく知っている」が 7%となっています。



問 25：「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか。（ＳＡ）

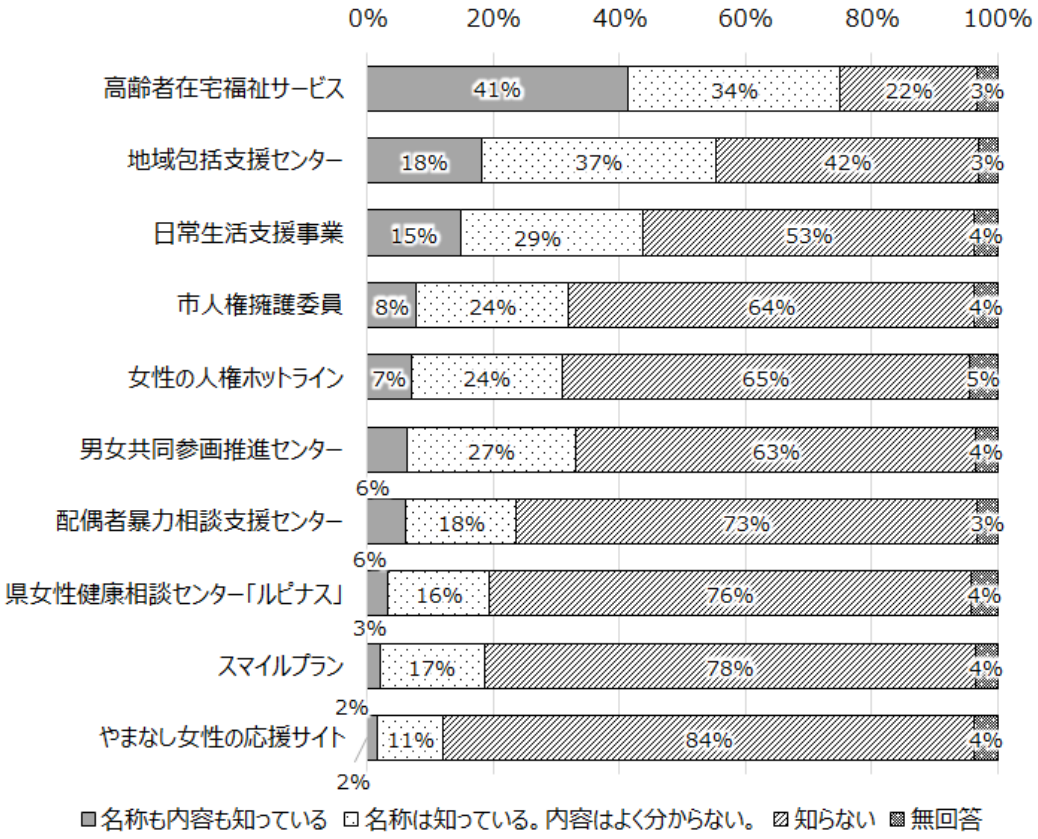
「反対」が 33%、「どちらかというと反対」が 32%と多くなっています。「どちらかというと賛成」は 21%となっています。



問 26：現在、県や上野原市などで実施している次の事業・施設・サービス・組織・団体についてご存知ですか（ＳＡ）

「名前も名称も知っている」という回答が最も多かったのは『高齢者在宅福祉サービス（デイサービス、ホームヘルパーなど）』で 41%、次いで『地域包括支援センター』が 18%、『日常生活支援事業（障害者の居宅介護支援、短期入所）』が 15%となっています。

『スマイルプラン』に関しては 78%が「知らない」、17%が「名称は知っている。内容はよくわからない」と回答しています。

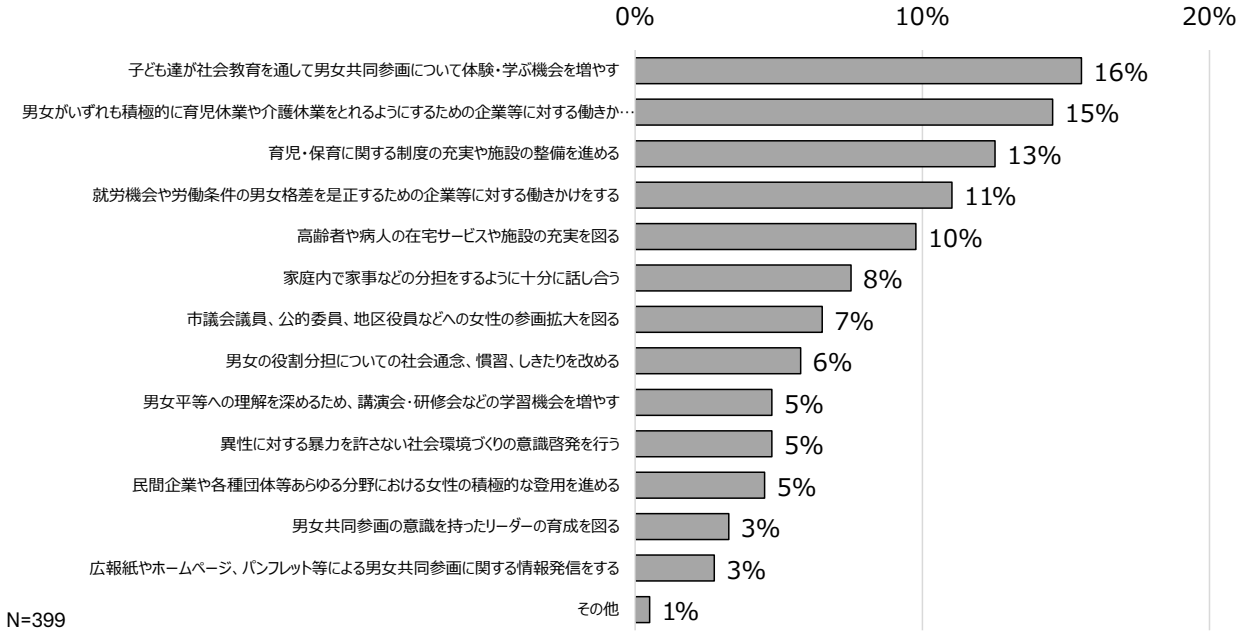


【前回調査】

カテゴリ	名前も名称も知っている	名称は知っている内容はよく分からない	知らない	不明	サンプル数
高齢者在宅福祉サービス（デイサービス、ホームヘルパーなど）	43.4	37.9	12.9	5.8	100.0
日常生活支援事業（障害者の居宅介護支援、短期入所）	16.3	31.6	44.2	7.9	100.0
上野原市地域包括支援センター	9.7	32.4	50.5	7.4	100.0
上野原市人権擁護委員	9.5	35.0	48.4	7.1	100.0
男女共同参画推進センター（ぴゅあ富士など）	5.3	26.1	60.8	7.9	100.0
女性の人権ホットライン	3.2	25.8	64.5	6.6	100.0
配偶者暴力相談支援センター	2.9	16.1	73.4	7.6	100.0
上野原市スマイルプラン	2.6	22.4	68.7	6.3	100.0
やまなし女性の応援サイト（インターネットホームページ）	1.6	7.6	84.2	6.6	100.0
山梨県女性健康相談センター「ルピナス」	1.1	16.3	75.5	7.1	100.0

問 27 男女共同参画社会の実現をしていくためには、今後、行政はどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか（ＭＡ）

「子ども達が社会教育を通して男女共同参画について体験・学ぶ機会を増やす」が 16%と最も高く、次いで「男女がいずれも積極的に育児休業や介護休業をとれるようにするための企業等に対する働きかけをする」（15%）、「育児・保育に関する制度の充実や施設の整備を進める」（13%）、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための企業等に対する働きかけをする」（11%）などとなっています。



【前回調査】

カテゴリ	%	件数
高齢者や病人の在宅サービスや施設の充実を図る	41.1%	156
男女がいずれも積極的に育児休業や介護休業をとれるようにするための企業等に対する働きかけをする	37.6%	143
子ども達が社会教育を通して男女共同参画について体験・学ぶ機会を増やす	33.7%	128
育児・保育に関する制度の充実や施設の整備を進める	28.7%	109
就労機会や労働条件の男女格差を是正するための企業等に対する働きかけをする	19.2%	73
広報紙やホームページ、パンフレット等による男女共同参画に関する情報発信をする	17.6%	67
男女平等への理解を深めるため、講演会・研修会などの学習機会を増やす	13.4%	51
地区役員や公的委員・役員などへの女性の参画拡大を図る	11.3%	43
検診体制や相談などの健康管理システムの充実を図る	10.5%	40
男女共同参画の意識を持ったリーダーの育成を図る	8.7%	33
民間企業や各種団体等あらゆる分野における女性の積極的な登用を進める	8.2%	31
上野原市男女共同参画推進条例を設置し、具体的な実践目標を定める	7.6%	29
異性に対する暴力を許さない社会環境づくりの意識啓発を行う	4.7%	18
サンプル数	100.0%	380

問 28　上野原市で男女共同参画社会を実現するのに必要と思われることを、次の欄に自由にお書きください。（自由記載）

・男社会であると感じる事多々。意識の変革は男性でなく女性へも求められる。

・男性だから、女性だからと区別することは大切であるが、仕事、家庭において性別を持ち込み役割を一方的に押しつけるのは時代に逆行しているように感じる。そのため、個々人の考え方を尊重し、雇用機会は隔てなく、また男女関係なく社会に参加できるプログラム等、必要と考えられる。

・人口を増やす。

・男が外で働き、女は家庭を守る、それもいいと思うが時の流れの中ではそれが正しいとか間違っているとかは言えない。家族、夫婦、カップルがそれぞれ話し合い 1 番いい方法、自分達の暮しに合っている方法を見つけることが大切！！常に話し合って会話をして、と思っています。

・カルチャーセンターやスポーツ施設 etc、男女を問わずに楽しめる場を提供してほしい。そういった場で親交を深め、男女の性別に関らず共同生活する為の意識の底上げ、協力する大切さを広め情報共有していければ良いと思う

・お父さんを含めた、子育てイベントや、家族で楽しめる公園を増やすと良い。父親が子どもを連れて、外に出やすくなり父親同志の交流が増え、家事、育児、介護をするのがあたり前という意識が高まると思う。

・まず女性は平等でなく、優遇を求めているので実現は難しい。

・保育園などへのあずけやすさ（病気の時でも）・地域の交流会、子どもがいる人どうしの活動など

・問 27 の通り、教育を通して男女共同参画についての理解を深めていく必要があると思う。また、企業に対しても男女格差を無くす為、市が働きかける必要もあると感じる。

・人口が増えないことで、利用できる施設や制度が少ないのがまずは課題だと思う。働き先も少なく都心に出る人も多いため上野原市として男女共同参画社会を実現するのは難しいと感じる。まずは上野原市の魅力や政策を市民がもっと周知できるように宣伝等していった方がよいと思う。

・めまぐるしく変わる時代の風を感じています。このアンケートを答えるにあたり市の HP をみました。上の原市アンケート→NHK(全国首長アンケート）当市では大月市を参考にしていると村上市長はお答えでした。もっと全国規模で考えた方が良いと思いました。

・上野原市役所に女性の上位職職員がいないのに無理

・意識改善

・個人的には、上の問 27 の 4、7、8、（私が〇を付けた項目）が最も重要だと思います。特に 8、番の方々が市や地域のリーダー的存在だと思います。特筆しますと、市議会議員の女性議員の人数が半数以上になることを切望致します。

・家族形態は核家族ではなく、やはり複合家族の形が幸せなベースだと思います。

・（上野原市に限ったことではないが）まず、男女共に仕事、家事、育児を自分ごととして捉えること、次に、そうするために会社等の支援を充実させること、そのとき、それを支える人（例えば子どものことで休んだ人の分を支える人）に対する支援も大切になってくると思う。現在の共働き家庭は、従来の男：仕事、女：家事、育児にもう 1 人分の仕事を加えているので、無理が生じて当然である。誰しもが仕事、家事、育児をするのが当たり前になりつつある中で、一人一人の仕事量を見直していくべきなのではないかと考える。

・老人の考えが古くて、新しく来た人にいやがらせなどをするので困ります。働く所も車がないと行けない　休みはじぶんたちでかわりの人を探させる。半年くらい都内の会社で研修して　なあなあな仕事の仕方を　改めた方がいいと思う。市役所や病院の人も上から目せんで感じ悪い。都内じゃ考えられないです。

・問 27 に出ている事をある程度の年令まで機会を増していく。とにかく認知させる事。体験、学ぶ事で意識付けが進んでいくと思われる。又、社会に出たらやはり企業地域も含め共同参画の情報を発信していく事が大切と思われます。

・あらゆる分野に参画していこうという女性の意識改革　どんな分野においても男性に任せておけばという意識が強い

・父母の産休を長期にする。一時預かりを充実させる。（ファミリーサポートの賃金を上げて登録を増やしたり、LINE 等活用して使用しやすくする）

・どんな人でも働きやすい環境作り。

・公的機関の職員の数を男女比 50 対 50 にする

・男性を対象とした料理教室を開催。男女を問わず、自分が得意な事、好きな事を伸ばし社会に役立てる環境があるといい。

・①コミュニティの場の減少(東日本震災までは、コモアの公正屋にテレビもあり、広いスペースにテーブルやいすもあり、高齢者の歓談や、小中学生が勉強などをする姿も見うけられました)により、親睦を深める機会が減少した。 ②上野原に越して 26 年になるが、知人・隣人は出来たが、友人はできなかった。子供たち人も(小 4、中 1 で越してきた)友人はできなかった。何かしら、よそ者を排除するような、伝統(因習)を感じ、子どもたちは出て行きました。若者が住み続けたいと思えるようにしなければお金をかけてもしかたがないと思う。 ③コモアの人的資源（「はやぶさ」の川口淳一郎氏をはじめ）を有効に活用できているか？私は越してきたころ、市に協力しようと市長あてに手紙を送ったが、採用されず、「八王子つばめ塾」に仕事しながらボランティアすることになった。（コロナ前まで続けた）

・年代による性別の役割の任氏指揮の違いが強いと思う。子どもに対して性別の役割を伝えることなく出来るだけ平等な認識をすれば良いかな？と思った。性別ではなく、力の強さ、立場を軸に相手を思いやることが必要だと思う。子どもの頃の事を考えると、学校の校則で髪の毛(長さ、色…）や制服(学ラン、スカート、ブラウス、セーラー…）など自分の性別らしく居させられるようなルールだと思う。「自分らしく」入れる校則にすることが男女共同参画の実現につながると考えた。

・子供がいる家庭などの働きやすい労働勤務体制をつくる。仕事場に保育園や託児所などを設置する。男女が協力し合う社会を作るように呼びかけや企業に呼びかけたり何か対策を考える

・男女共同参画に関する意識啓発を積極的に行う。

・誠にすみません．．が、スマイルプラン　何かをして変えていくことはわかります。とくにこのアンケートは女性を中心としている様に思います。んー…アンケートを出す前にこの人はこのアンケートに答えることができるのかをよく考えて出した方がよいと思います。このアンケートは障害者手帳 B の子なのでちょっと…ムリ…意見ができるのか？です。母より

・「男女共同参画社会」という言葉にとらわれないこと。男、女つまり男だからとか女だとかをあまり考えないことがよいと思います。市長が女性になるとか…（古い物の考えの今の市長でなくて…）新しいことを考えてくれる人…

・市政に女性を積極的に参入させる。慣習、しきたりの古い概念にびっくりします。行動力のあるリーダーを外からでもしっかりいれて、具体的アクションをおこしていかないと変わらないと思います。海外の方を招いてお話を聞くのも面白いと思います。

・男女共同参画社会”を実現するために同じ職種で男女の給料同一賃金にする。そもそも男女とも水準の高い給料が得られれば良いと思う。ハローワークをよく見るが、額面 20 万円いかないところも多くあるのが現状だ。

正直な話手取り 20 万以上もらえるような社会になってほしいと思う。女性の給料が高くなれば(男性と同じくらい)、男性も主夫する選択肢も増えるだろうし、人には労働や家事の向き不向きがあるわけで、男女ともに選択肢(仕事や家庭)が増えていけばそれなりに心や健康面で豊かになれる気がする。

・上野原市は、戦前のいわゆる昭和前の時代がそのまま続いているのが現状です。（地区役員は高齢男性のみ）まずは地区役員へ若い女性が参画できれば活性化すると思う。

・昔とちがい、今は女性の方が家庭内でも強いと思います。会社の中では、まだなっていませんが、数年で男女が同じになると思います。（日本という国民世でそう見えているだけだと思う）

・思っていること　山梨県は特に男女差別が強い　いまだに長男が親の面倒をみるべきという考えがある　近くに住む娘は、夫に気を使って親の面倒をみない等。 都会人からすると変な男女差別感が強い。 山梨県は住みにくい、考えが閉鎖的。 意地が悪い人が多い。

・何らかの情報発信をしていく。

・「男性」「女性」というイメージにあてはめず一人ひとりが持っている個性、能力を見てその力を出せる社会にする。企業、官庁、議員でも出来るだけそこを見て、女性と男性の比が対等になることを祈る。

・男女共同参画を理解できる年代・年齢層が少なく、上野原市だけでなく日本で実現するのはまだまだ無理でしょう。日本、自治体のリーダーが若い世代の頭の柔軟で理解のある世代に移っていかないと難しいと思う。

・女性の社会的地位向上のために、官・民を問わず、女性の管理職を増やすことを法律として確立させ、守らせる必要がある。人は地位を与えられることでその役割のために努力をし、それにふさわしく成長する。男女に能力の差が無いことを人々が自覚し、女性の社会進出を応援する社会でありたいと思う。

・アンケートをとる事よりもまず上野原市の問題を市民に知らせる事。ほとんど無関心。役員のなりてなし、皆病気もち、ご指導よろしくお願い致します。

・上野原市に住んで良かったと思われる地域にしてほしい。休みの日は、八王子か石和へ行くので、上野原の魅力を発揮して欲しい。上野原市に住んでいると胸を張って言える場所にしたい。

・特に女性で乳児や幼児のいる母親は、働きにくい地域であると嫁を見ていると感じる。急な発熱時の受診、土日祝日、吉田は遠く感じた。今後、上野原、大月、都留あたりで対応できればうれしいが…　保育園も年間休日計画以外子どもが 1 人だろうが 2 人だろうが保育をすべきと考える。

・そもそも男女の比率が合ってなさすぎる。偏りすぎてる。男女共同参加社会云々よりまず他県から人を呼ぶ事を前提でやらない限りこれは実現すらしないと思う。

・時間

・女性の正規雇用の増大

・もっと新しい意見、人など全てにたいして新しい事を取り入れるべき。

・男女共同参画についての議論を進めると、男女の同質性の強制になりかねないため、思いやりの心や道徳的なことを進めれば十分である。よって、男女共同参画を取り立てて活動する必要はないと考えます。

・男女同じ時間働いていても、家事は女性がするもの。と言う考えの男性が多いと思うので、この様なアンケートを多くの男性にしていただき、家事、育児の分担、女性の働き方について、考えて欲しいと思います。しかし、男女平等とか男女格差を無くそうとか、言う考えはあまり好きではないので、そう言った講演会とか研修会は参加したくないと思ってしまします。男性の方が得意な事も多く、女性の方が得意な事もあると思うので、お互い尊敬しあえて感謝しあえれば良いかと思いますので、私は、多少不平等でも、格差があっても良い気がします。

・偏りのない役員選出等が必要かと

・というか税金が高すぎる。取りすぎ。

・実行力。市民の声がたしかにあるのなら実現させるために資源をあてる

・女性しか子供を産むことができないので、どうしても女性に負担がかかってしまうように思いますが…　1 人親（母親）の場合、商店街でフードバンクを受け取れる、子ども食堂を利用できるようになればと思います。（どちらとも 1 人親かわかるものを提示）市役所で月 2 で行われている子ども食堂はとてもいい活動だと思いますが、男性が多く、本当に利用したい方が利用できていないように感じました。

・市民により細かく周知活動を行う必要があると思う

・古いしきたりは今後見直していくべきだと思う。また、他の所から引っ越して来た人や嫁いだ先で虐めたり差別したりするそういった風習も無くしていくべきだと思います。

・他の自治体の成功事例を積極的に取り入れ、それを上野原市に最適化させること。

・男だから　女のくせに　という古い概念に囚われがちな世代からの世代交代

・古い固定概念を薄れさせる為、若い方が積極的に参加出来るイベント等

・小さな子がいる場合、母親と過ごす時間は愛情を感じるなど、心身の発達に必要だと思う。なので、どうしても働かなくてはいけない場合や、子どもと過ごす時間が辛いなどの理由以外は育児に専念するべきだと思う。

育児が落ち着いたら自分がやりたい働き方を選択すれば良い。

・何でもかんでも「男女共同参画社会を実現する為には」と言うのは一部の女性に「自分も男性同様に働かなくてはいけないのか」とプレッシャーを与えると思う。女性にしか出来ない事、男性の方が向いている仕事はあるので区別するのは全てが悪だとは思わないです。

・みんなが参加出来る企画や講習会等が増加すればいいとおもいます

・JR 中央線の上野原駅および四方津駅の便数増加、特急停車化。上野原市民が、都内・甲府へ通勤者が、育児や介護の時間が少しでも確保できるように。

・このような会議をする際、女性だけ、男性だけではなく、一緒に話し合いをし、それぞれの立場からみて考えていることを共有したほうが解決に向けて進展があると思います。

・気軽に相談できる場を設ける

・もうすでにやられていることと思いますが、出産を機に(夫婦で受ける教室があると思うので)、男性が育児や家事をするのが当たり前になるよう、意識改革につながる楽しい講座があると良いのでは、と思います。子どもへの関わり方や、家事をやろうと思う気持ちの育みなど、その辺りの応援が、現実的に必要かと思われます。

・上野原に住んで 30 年以上になるが、住み始めた頃に感じた旧態然とした価値観に驚いたが、未だに感じている。まずこの価値観を変える事が最初の一歩かもしれない。男性も女性も対等だという概念を持つこと。そのためには社会（自治体や企業）が女性の登用を含めて啓蒙活動を続ける必要がある。

・田舎でまだまだ男女の差が多いのが現実だと思います。どの世代も〇〇すべき、するべきという常識をはずして白黒つけない考え方を持てたら素敵だと思います。違う県や市外から来たお嫁さんは地域の行事のしきたりが大変そうです。(特に同居の長男のお嫁さん)　小さい頃から他人にも自分にも思いやりを持って、いろんな考え方をいいよねと言える環境に…親も地域も学校でも引き続き教育できたらいいと思います。

・アファーマティブアクションに取り組むくらい大胆な姿勢。また信頼できる専門家・アカデミシャンなどを招くこと

・すごい抽象的なのですが、今現在の社会が回るために必要な業務量の 3/4 で社会が回わり、人間が従来に比べラクすることが出来るようなシステム・インフラ作りだと思います。

・活躍したと思っている女性の活動が妨げられないよう、市としても引き続き啓蒙活動をお願いします。

・子ども室内遊び場を増やす

・男女が参加しやすいイベントを行う

・市が、目指す男女共同参画社会を実現する為に行動計画を公開して、議論の場を作り、幅広い意見を聞き、計画に反映させる。

・女性リーダー

・小学校などの早い段階から授業で教育をすることで、固定観念がなくなり、男女共同参画社会を実現することが可能だと考える。

・各自が当事者意識を持つことが必要だと思います。

・女性が活躍出来る職場がない。男性の賃金をもっとあげ、女性が働かなくても豊かに暮らせるようにして欲しい。